

教職に関する科目

授業科目名	右上表示	授業科目名	右上表示
保育内容指導法(健康)	教職-1(幼)	教育課程論(中高)	教職-27(中高)
保育内容指導法(人間関係)	教職-2(幼)	道德教育の研究(小)	教職-28(小)
保育内容指導法(環境)	教職-3(幼)	道德教育の指導法(中)	教職-29(中)
保育内容指導法(言葉)	教職-4(幼)	特別活動(小)	教職-30(小)
保育内容指導法(表現)	教職-5(幼)	特別活動・総合的な学習の時間の指導法(中高)	教職-31(中高)
生活科教材研究	教職-6(小)	教育方法・技術 1	教職-32(幼小)
音楽科教材研究	教職-7(小)	教育方法・技術 2 (情報通信技術の活用含む)	教職-33(中高)
保健科教育法Ⅰ	教職-8(中高)	児童相談心理学	教職-34(小)
保健科教育法Ⅱ	教職-9(中高)	生徒指導・進路指導	教職-35(中高)
保健科教育法Ⅲ	教職-10(中高)	学校カウンセリング基礎論 1	教職-36 (幼)
保健科教育法Ⅳ	教職-11(中高)	学校カウンセリング基礎論 2	教職-37(小中高)
家庭科教育法Ⅰ	教職-12(中高)	教育実習(幼)	教職-38(幼)
家庭科教育法Ⅱ	教職-13(中高)	教育実習(小)	教職-39(小)
家庭科教育法Ⅲ	教職-14(中高)	教育実習(中高)	教職-40(中高)
家庭科教育法Ⅳ	教職-15(中高)	教育実習(高)	教職-41(高)
教育学概論 1	教職-16(幼小)	教育実習事前指導Ⅱ(幼)(夏期スクーリング)	教職-42(1)(幼)
教育学概論 2	教職-17(中高)	教育実習事前指導Ⅱ(幼)(集中スクーリング)	教職-42(2)(幼)
教職基礎論 1	教職-18(幼小)	教育実習事前指導Ⅱ(小)(夏期スクーリング)	教職-43(1)(小)
教職基礎論 2	教職-19(中高)	教育実習事前指導Ⅱ(小)(集中スクーリング)	教職-43(2)(小)
教育社会学 1	教職-20(幼小)	教育実習事前指導Ⅱ(中高)(夏期スクーリング)	教職-44(1)(中高)
教育社会学 2	教職-21(中高)	教育実習事前指導Ⅱ(中高)(集中スクーリング)	教職-44(2)(中高)
教育心理学 1	教職-22(幼小)	教職実践演習(幼)(夏期スクーリング)	教職-45(1)(幼)
教育心理学 2	教職-23(中高)	教職実践演習(幼)(集中スクーリング)	教職-45(2)(幼)
特別支援教育(幼)	教職-24(幼)	教職実践演習(小)(集中スクーリング)	教職-46(小)
特別支援教育(中高)	教職-25(中高)	教職実践演習(中高)(夏期スクーリング)	教職-47(1)(中高)
教育課程論(小)	教職-26(小)	教職実践演習(中高)(集中スクーリング)	教職-47(2)(中高)

保育内容指導法（健康）（夏期スクーリング）

担当教員： 澤田美砂子・吉田 真咲

3年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

子どもの健康は、こころとからだの発育発達特性と、子どもを取り巻くあらゆる環境の中で捉えることが必要である。幼児期は、生涯にわたって「生きる基礎」となる自らの健康に対して意識をもち、基本的な運動や日常生活習慣を獲得する大切な時期であり、そこに関わる保育者の役割は大きい。授業の前半は、おもに、子どもの心身ともに健康な育ちを促すために、園生活で保育者が工夫すべき保育の環境構成や援助の基本を、理論と保育実践を通して学ぶ。また、映像や音源、絵本などの視聴覚教材の活用、及びインターネットによる情報検索を利用して、実際の保育現場や子どもの姿についての理解を深め、保育実践の展開につなげていく。授業の後半は、グループで健康に関わる保育実践について考察し、模擬授業の指導案作成と発表を実施する。成績は模擬授業を含む授業への参加状況及び最終日に実施する最終課題にて評価する。

授業の方法

【面接】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①幼稚園の生活における子どもの健康について、現代の環境や子どもの発育発達特性の観点から理解する。
- ②保育者が健康を指導する際の具体的な方法を、理論と保育実践を通して理解する。
- ③領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。

授業計画

オリエンテーション

- 1. 幼児期の健康、幼稚園教育における健康とは
- 2. 領域「健康」の指導における保育者の役割
- 3. 子どもを取り巻く現代的課題と健康 (第1日)
- 4. 子どもの身体とこころの発達
- 5. 子どもの運動能力と動きの獲得
- 6. 運動遊びにかかわる指導 (第2日)
- 7. 子どもの生活習慣の確立と健康
- 8. 子どもの食と健康
- 9. 生活習慣にかかわる指導と環境構成 (第3日)
- 10. 子どもの疾病と健康
- 11. 子どもの生活と安全
- 12. 安全管理と安全教育 (第4日)
- 13. 健康領域の指導案のあり方と模擬授業の例
- 14. 模擬授業の指導案作成 (第5日)
- 15. 模擬授業の発表と検討 (第6日)

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

幼稚園教育要領，保育所保育指針，認定子ども園要領の健康の部分を授業開始までに1時間程度よく読み理解してきてください。

②使用教科書 新・保育シリーズ10 保育内容「健康」 学術図書出版社 ISBN978-4-7806-1325-4 2025

- ③参考書 保育内容健康 榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社 2009
事例で学ぶ保育内容健康 無藤隆監修 萌文書林 2007
その他、授業中に適宜資料を配付する。

④準備するもの 筆記用具

⑤成績評価 授業への取組み（グループ討議、授業レポート）30% 模擬授業の指導案 30% 試験 60 分 40%

⑥学生へのメッセージ

講義形式が中心とはなりますが、適宜グループ討論やグループ発表などの演習およびパソコンルームを使用しての指導案作成などを行います。

⑦追試験 対象科目

保育内容指導法（人間関係）（夏期スクーリング）

担当教員： 日下部 弘美

3年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2025年度

概要

幼児期は将来にわたり人とのかかわりながら生活を営んでいくための基礎となる力を培う時期である。近年、人とのかかわりの希薄化が問題視され、幼児期からの「心の教育」の重要性が指摘されつつある。保育の場面で、豊かなかかわりが持てるような集団をどのように育てていくのか、また、その集団の中で一人ひとりが活かされるような人間関係をどのように築き上げていくのか、急速な少子化に伴う幼稚園の役割はどうあるべきなのか、事例やVTRを通してさまざまな角度から考察をおこなう。その中で、情報機器及び教材の活用についても理解を深めると共に、子どもたちの豊かな育ちを保障していく具体的な指導法を習得する。

授業の方法

【面接】

対面授業。グループワークを導入していく。毎回のリアクションペーパーについては、翌日の講義の初めにフィードバックを行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①現行の幼稚園教育要領の内容を理解する
- ②豊かな人間関係を育むために大切なことは何かを理解する
- ③実践例から保育者の援助の在り方について習得し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、実践後の振り返りの重要性の理解及び保育者としての専門性を高める
- ④領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる

授業計画

- | | |
|-----|---|
| 1日目 | 1. 幼稚園教育要領の基本と領域「人間関係」との関連性－全体構造の理解－
2. 実践事例から学びを深める(1)－乳児の姿から |
| 2日目 | 3. 乳幼児期の子どもの人間関係の発達 ①0～3歳未満児 ②3歳児
4. 乳幼児期の子どもの人間関係の発達 ③4歳児 ⑤5歳児
5. 実践事例から学びを深める(2)－幼児の姿から |
| 3日目 | 6. 遊びや生活の中で人とのかかわりを育てる保育者の役割と援助
7.トラブル、道徳性・規範意識の芽生え、協同
8. 実践事例から学びを深める(3)－様々な事例を通して |
| 4日目 | 9. 特別な配慮を必要とする子ども
10. 領域「人間関係」における評価
11. 現代的課題と保育実践の動向 |
| 5日目 | 12. 指導計画・指導案について <PC 演習室にて実施予定>
13. 模擬保育の指導案作成 |
| 6日目 | 14. 模擬保育の実施と振り返り① <附属豊明幼稚園にて実施予定>
15. 模擬保育の実施と振り返り②
*幼稚園保育室又は遊戯室にて、2～3事例の模擬保育を実施する。
その後、全員で意見交換を行い、指導案作成上の留意点を明確にする。 |

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

1. 指定教科書の「序章」及び「第2章」の、「人間関係」を精読しておくこと（授業初日までに約2時間）
2. 1回の授業につき復習・予習、翌日の資料には必ず目を通しておくこと（約1時間）
3. 指導案作成（受講中約2時間）

②**使用教科書** 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 2018

③**参考書** 特になし

④**準備するもの** 模擬保育で使用する物（授業内で詳細はお話します）

⑤**成績評価** 筆記試験（最終日に実施）30% 模擬保育への取り組みと発表内容 30% レポート 40%

授業中の発言、グループディスカッションにおけるコミュニケーション能力など総合的に評価する。

⑥**学生へのメッセージ**

講義内ではグループディスカッションを多く取り入れ、そこでの活発な意見交換を期待しています。各自がアクティブラーニングに繋がるよう心掛け、幼児理解を深めていきましょう。また、模擬保育は附属幼稚園で実施予定です（状況に応じて変更あり）。

保育室で実施することで、指導案作成だけでなく実践することでの気づきを皆さんで共有し、今後に活かしてほしいと思います。

⑦**追試験** 対象外科目

保育内容指導法（環境）（夏期スクーリング）

担当教員： 徳田 多佳子

2年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2025年度

概要

幼児期における教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育の基本は幼児期の特性を踏まえ、「環境」を通して行うものである。幼稚園教育要領を確認し、実際の保育・教育現場における活動や環境構成、その意図について学ぶ。その中で領域「環境」について記載された箇所を理解するとともに、実践事例をもとに子どもたちが活動するにあたり構成する環境やその活用方法についても学ぶ。その際「環境」との関わりを通して子どもが身につけることができる資質や能力について学ぶとともに、保育者の援助方法についても学んでいく。併せて、情報機器及び教材の活用についても理解を深める。

授業の方法

【面接】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ・保育内容「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く様々な環境について理解する。
- ・「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。
- ・保育の環境（「ひと」「もの」を含む）の具体的な活動を考え、計画実行することができる。

授業計画

1日目	1. イントロダクション 保育と環境 2. 領域「環境」とは	4日目	8. 子どもの生きる力を育む環境 9. 計画立案としての保育案作成 (グループ活動)
2日目	3. 子どもの育ちと領域「環境」 4. 子どもを取り巻く人的環境 5. 子どもを取り巻く物的環境 (新聞紙を使った簡単な遊び)	5日目	10. 子どもを守り育てる環境 11. 気になる子どもと環境 12. 情報機器及び教材の活用
3日目	6. 子どもを取り巻く社会的環境 7. 子どもを取り巻く自然環境 (自然物を使った簡単な遊び)	6日目	13. 模擬保育 (グループ発表) 14. 環境を通じた教育・保育の現代の課題 15. 学修のまとめ

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

テキストと参考書である『幼稚園教育要領解説』の領域「環境」に示されるねらいと内容に目を通し、具体的な子どもの生活や保育活動と結びつけて考える。4時間程度。

②使用教科書

『保育内容 環境—あなたならどうしますか?』第2版 酒井幸子他著 萌文書林 2018

③参考書

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2018

④持参するもの

テキスト、参考書、筆記用具、定規（15 cmくらいの短いもの）、古新聞数枚、お名前ペン（黒）

⑤成績評価

スクーリング最終日の試験（60分）60%、グループ活動での保育案作成及び発表や授業への取り組み40%を、総合的に評価する。

⑥学生へのメッセージ

日ごろから自分の周りをよく観察し、自然の変化や季節に対して敏感に感じ取れるように意識すること。また身の回りにあるものや道具、生活する環境全体に目を向けて、積極的に授業に参加してください。

⑦追試験

対象科目

保育内容指導法（言葉）（夏期スクーリング）

担当教員：中野 圭祐

3年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2025年度

概要

幼児期の言葉の獲得における言語環境の重要性を認識し、領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深め、保育者の日々のかかわり方や絵本などの保育教材の扱い方など保育者の役割と援助について理論と実践の両方に触れながら学ぶ。実践を通して、情報機器の活用についても学ぶ。また、保護者からの言葉に関する相談への助言ならびに小学校への円滑な接続についても触れる。

授業の方法

【面接】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①幼稚園教育要領の領域「言葉」の基本的事項や意義を理解し、幼児期の言葉の発達とその特徴を理解する。
- ②保育者としてのかかわりや保育教材（絵本、紙芝居等）について実際の保育場面に即して考えることができ、指導計画を立てられる。
- ③小学校教育との円滑な接続や保育内容の現代的課題を踏まえ、幼児期にふさわしい生活と援助、のぞましい環境の構成について、総合的に捉える視点を養い、学びを深めることができる。

授業計画

1日目（対面）

1. オリエンテーション・子どもの言葉と育ち 領域「言葉」とは何か
2. 言葉の発達と保育①－0～3歳の頃－
3. 言葉の発達と保育②－4～6歳の頃－

2日目（対面：絵本・紙芝居持参のこと）

3. 言葉を育む保育教材と指導－絵本－
4. 言葉を育む保育教材と指導－紙芝居－
5. 言葉を育む保育教材と指導－伝承遊び・言葉遊び－

3日目（対面）

4. 子どもの言葉と保育者のかかわり
5. 話し言葉から書き言葉への広がり
7. 言葉の指導計画と指導案－長期的・短期的な計画－
8. 部分指導案の立案の考え方

4日目（対面）

9. 部分指導案作成
10. 部分指導案完成
11. 模擬保育準備

5日目（対面）

12. 特別な配慮や支援が必要な子どもとの関わり
13. 幼児教育における「言葉」の現代的課題

6日目（対面）

14. 模擬保育
15. 保育内容指導法「言葉」のまとめ（試験）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

発達心理学の本で言語発達分野の復習をしておいてください。また、絵本1冊と紙芝居1つを用意しておいてください。（公共の図書館で借りることができます）

事前課題 絵本と紙芝居を読み込んでおく。

②使用教科書 幼稚園教育要領解説 平成30年3月 文部科学省 フレーベル館 2018

その他、プリント資料を配付します。

③参考書 「保育内容「言葉」と指導法：子どもの心のことばに耳を澄まして」 仲本美央・吉永安里 編著 萌文書林 2025

「新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉」 無藤隆 監修 萌文書林 2018

子どもとことば 岡本夏木 岩波新書 1982

ことばと発達 岡本夏木 岩波新書 1985

④持参するもの 絵本1冊、紙芝居1冊（2日目に使用します）

⑤成績評価

グループディスカッションへの参加貢献度10%、コメントペーパーの記述25%、

部分指導案20%、模擬保育15%、最終日の試験30%（論述による、知識、判断力、思考力、表現力の評価）を総合的に評価します。

⑥学生へのメッセージ

短い期間の中で多様な内容を細分化して扱うため、全日程出席することを前提とします。グループワークも行いますので、積極的に参加するようにしてください。

⑦追試験 対象外科目

保育内容指導法（表現）（集中スクーリング）

担当教員：後藤 雅宣

3年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

幼稚園教育要領に示されている5領域のうち、感性と表現に関する領域「表現」について、造形教育という視点から、その意味や内容について学習する。そもそも人間にとっての表現とは何か、という問題を含め、幼児期における表現の意味や内容について、講義と実習を通して考えていく。

幼児の表現の世界は、元来視覚のみならず触覚や聴覚などすべての感覚を総動員してのものであるが、幼児の日常においての中心的な活動としての造形表現を中心に据えて、それに関わる支援の方法や、技術や材料等について、基本的な事項を理論と実習の双方から学習し、造形表現を主たる活動とする指導計画の実践的な立案に結び付けていく。

また、ICT機器の効果的な活用の観点から、プロジェクターの活用、デジタル画像や動画の処理等について、各理論学習の中で紹介していく。

授業の方法

【面接】対面授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①幼児における表現の意味と、適切な指導の意義について理解できる。
- ②造形表現に関わる材料について理解し、それらの活用ができる。
- ③造形表現に関わる技法について理解し、教育活動に反映できる。
- ③幼児教育における造形表現の活動の狙いと配慮事項を理解し、指導計画の策定に生かすことができる。

授業計画

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1. 授業ガイダンス／概要および評価等について
ICT機器の効果的な活用 | 9. 表現技法／フロッタージュ、色セロファン(水による重色) |
| 2. 人間にとっての「表現」とは、幼児にとっての「表現」とは | 10. 表現技法／フィンガーペインティング、パチック、ステンシル |
| 3. 視覚の特性と色彩 | 11. 表現技法／スクラッチ |
| 4. 造形表現における材料 | 12. 表現技法／ストリング、コラージュ |
| 5. 造形表現における技法 | 13. 指導計画の立案 |
| 6. 感性について | 14. 指導案の作成について |
| 7. 表現技法／デカルコマニー | 15. 互評およびまとめ |
| 8. 表現技法／マスキング、スタンピング、ドリップング(垂らし絵)、ドリップング(吹き流し絵) | |

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

事前学習として、教科書として採用する「保育をひろく造形表現」において示される「造形表現の意義」(pp9～14)をよく読み理解を深めた上で、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を再度確認し、それぞれに示されている5つの領域と「表現」との関係について、認識を保持する。事前学習に約3時間。

事前課題

「表現とは何か」について、これまでの自身の考え(準備学習における内容に影響される必要はない)を、1600字以内で自由に記述し、講義初日にA4書面にて提出する。書式は自由。

②事後学習

授業中体験した表現技法を使って、表現を楽しむという意識をもって、再度試行しておく。その際、種類の違う着彩材料や支持体(紙)を使用し、表現結果のバリエーションを確認してみる。事後学習に概ね3時間。

③**使用教科書** 保育をひらく造形表現 槇英子 萌文書林 2008

④**参考書** 事例で学ぶ保育内容 領域表現 無藤隆・浜口順子 萌文書林 2019
ふしぎだね。きれいだね。たのしいね。 槇英子 末永昇一 木下和彦 学校図書 2021
幼稚園教育要領

⑤**持参するもの**

初回： 絵の具セット（水彩絵の具・筆・水入れ・パレット）、ストロー、八つ切り画用紙(B4 大でも可)2 枚程度、スタンプ用
タンポ材料(不要な布地《総量ハンカチ大 10 枚分程度》)、輪ゴム 10 本程度)、マスキングテープ(幅任意)、雑巾、ティッシュ
※100 円ショップ等の絵の具は、原材料の性質上、使用に適さない。

※第 2 日目以降の材料については、スクーリング開始後授業中に指示する。

⑥**成績評価** 実習への取り組み等の学習態度 20%、実習作品 50%、指導計画・指導案への理解 30%

⑦**学生へのメッセージ**

持参する水彩絵の具は、学童用セットやポスターカラー等、種類を問わない。(アクリル絵の具は不可)

持参するマスキングテープは、養生用、デザイン用、装飾用、種類を問わない。(巾は 6～15 mm程度で、数種類あるとよい)

持参する筆は、平筆、丸筆、種類を問わないが、面相筆など小筆だけでは作業が難しい。(穂巾・太さは、5～20 mm程度で、数種類
あるとよい)

汚れが気にならないカジュアルな服装が望ましい。

⑧**追試験** 対象外科目

生活科教材研究（夏期スクーリング）

担当教員： 根本 裕美

3年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2025年度

概要

小学校学習指導要領解説生活編（平成29年版）を基に、生活科の授業の望ましい在り方について考え、生活科の年間計画や単元計画について理解する。生活科の授業の実践について体験的な活動を通して理解を深め、生活科学習指導案作成に生かすようにする。授業は、講義、発表、制作、学習指導案作成等、多様な活動を取り入れ、受講者が能動的に学びを創りだせるように工夫する。

授業の方法

【面接】

学位授与方針との関係

大学DP1、大学DP2、大学DP3、大学DP4、大学DP5

到達目標

- ①生活科の目標や内容、特質、教師の役割等を理解し、学習指導案の作成や教材準備等に生かすことを通じ、教師としての基本的な知識や技能を理解することができる。
- ②生活科の内容に関わり学んだことや体験したことを、工夫したり協働したりしてまとめ、分かりやすく発表することができる。

授業計画

1. オリエンテーション、小学校における生活科の位置付け
2. 生活科の目標：教科目標 学年の目標
3. 育成を目指す資質・能力、生活科の指導と評価
4. 生活科の学習指導の特質
5. 生活科の内容構成と他教科との関連
6. 年間計画・単元計画作成のための基本の理解
7. 教材研究① 生活科の内容（6）「自然や物を使った遊び」に関わる制作の体験。
8. 教材研究② 生活科の内容（6）「自然や物を使った遊び」に関わる制作の交流
9. 生活科の指導と評価
10. 生活科の学習指導案の作成
11. 生活科の学習指導案の検討
12. 教材研究③ 身近な環境からの教材化の工夫
13. 保育所・幼稚園と小学校の連携：幼児教育 スタートカリキュラムの作成
14. 生活科の発展：中学年以上の学習 総合的な学習の時間
15. まとめ：生活科の理解 自己の変容

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

『小学校学習指導要領解説生活編』（平成29年版）を読み、基本的な知識を得ておくこと。また可能であれば小学校で実際に使用されている生活科の教科書を見ておくことが望ましい。制作や発表に関わる講義の際には、準備や練習の時間が必要となる。

②使用教科書 『小学校学習指導要領解説生活編』（平成29年版） 東洋館出版社 134円

③参考書

- 「MINERVA はじめて学ぶ教科教育10 初等生活科教育」片平克弘・唐木清志 編著（ミネルヴァ書房）2018年
- 新・教職課程演習 第15巻 「初等生活科教育、初等音楽科教育、初等図画工作科教育、初等家庭科教育、初等体育科教育、初等総合的な学習の時間」石崎和宏・中村和世 編著（協同出版）2021年
- 「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館）2018年
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校生活」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版）2020年

④準備するもの

- 上記指定の使用教科書
- 授業計画7～8に関わる準備物の詳細は、1日目の授業時に連絡するが、おもちゃの制作に必要なもの（身近にある廃材等・輪ゴム等）や、制作に必要な用具（のり、はさみ、定規、マジック）などを持参すること。
- 学習指導案作成は手書きでもパソコン作成でもよいが、修正を加えることを念頭に置いて作成するものとする

⑤成績評価 毎時間のレポートや積極的な取り組み態度：50%、発表や指導案、制作物：50%

⑥学生へのメッセージ

本講座の内容は「生活」の講座の内容を基に行います。可能な場合は「生活」を先に履修することが望ましいです。また、内容が一部「生活」と重なります。繰り返し学びたい場合の参加は歓迎します。体験的な活動、学生の皆さんからの発表やグループでの協議なども取り入れ、生活科の教材や生活科学習指導の理解を深めるとともに実際の授業場面を想起する授業にしていきたいと思っています。授業計画を一部変更する場合は、授業の中で説明します。

⑦追試験 対象外科目

音楽科教材研究（夏期スクーリング）

担当教員： 後藤 俊哉・津田 正之

3 年次～ 必修 2 単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

小学校音楽科で育成すべき資質や能力、そのために取り扱う内容、題材の構成（指導計画の作成）、教材の選択と配列及び指導法・評価法について、新小学校学習指導要領解説書及び模擬授業を通して学ぶ。

授業の方法

面接（スクーリング）授業、アクティブ・ラーニング

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①小学校学習指導要領について説明することができる。
- ②音楽科授業における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し、学習指導案を作成することができる。
- ③上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。

授業計画

イントロダクション：授業の進め方と授業を受けるにあたっての説明	6. 指導方法(1)1. 表現（歌唱、器楽）
1. 教科の目標(1)a. 自己概念の認識、b. 説明責任	7. 指導方法(2)1. 表現（音楽づくり）、m. 鑑賞
2. 教科の目標(2)c. 学習指導要領	8. 評価規準の意義と設定:1. 表現(歌唱、器楽、音楽づくり)、m. 鑑賞
3. 指導内容(1)d. 基礎基本、e. 知識、f. 能力、g. 共通事項、h. 音楽の構造、i. 曲想、c. 学習指導要領	9. 学習指導案の作成方法:1. 表現(歌唱、器楽、音楽づくり)、m. 鑑賞
4. 指導内容(2)j. 表現(歌唱、器楽、音楽づくり)、c. 学習指導要領	10. 学習指導案の作成:1. 表現(歌唱、器楽、音楽づくり)、m. 鑑賞
5. 指導内容③:k. 鑑賞、c. 学習指導要領	11. 教材・教具の準備:1. 表現(歌唱、器楽、音楽づくり)、m. 鑑賞
	12. 模擬授業と協議会(1)n. 実践力、o. 批評力
	13. 模擬授業と協議会(2)n. 実践力、o. 批評力
	14. 模擬授業と協議会(3)n. 実践力、o. 批評力
	15. 模擬授業と協議会(4)n. 実践力、o. 批評力

受講にあたって

- ①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間
教科書に指定した『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説音楽編』の 9～28 ページまで読んでおいてください。
- ②使用教科書 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説音楽編・文部科学省
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 音楽】・国立教育政策研究所
- ③参考書 ①小学校新学習指導要領の展開 音楽編 宮崎新悟・志民一成編著 明治図書 2017 年
②鑑賞の授業づくりアイデア集 坪能克裕ほか 音楽之友社 2009 年
③音楽づくりの授業アイデア集 坪能克裕ほか 音楽之友社 2012 年
④音楽の授業で大切なこと 中島寿・高倉弘光・平野次郎 東洋館出版社 2017 年
⑤こども・からだ・おんがく 高倉先生の授業研究ノート 高倉弘光 音楽之友社 2017 年
⑥歌唱共通教材 指導のヒント 富澤裕 音楽之友社 2013 年
⑦学びがグリーンと充実する！小学校音楽 授業プラン＆ワークシート 津田正之・酒井美恵子 明治図書 2020 年
⑧新学習指導要領対応 小学校音楽イチ押し授業モデル 今村行道・津田正之 明治図書 2020 年
(上記の参考文献は、当方で準備しておき、学習指導案作成時に参考にしていただけるようにします)
- ④準備するもの 鍵盤ハーモニカ及びソプラノ・リコーダー（模擬授業等で使用する可能性があります）
はさみやカッターナイフ、マジックペンなど教材づくりに必要なもので持参できるもの
- ⑤成績評価

模擬授業への取組状況（プロセス）と結果（アウトカム）を 70%、授業中に示すレポート課題の結果を 30%として成績を出します。
なお、特別な事由がない限り欠席は認めない（単位認定の対象としない）。15 分過ぎた遅刻は欠席扱いとします。

⑥学生へのメッセージ

時間の限られた中で、レポート課題や学習指導案を作成すること、教材・教具の準備をすることは非常に大変ですが、がんばってください。

歌唱共通教材の簡易ピアノ伴奏について、各学年で数曲ずつ弾けるようにしておいてください。ただし、ピアノが弾けることはさほど重要なことではありません。

まずは音楽教育の楽しさを実感してください。

⑦追試験

対象外科目

保健科教育法Ⅰ（テキスト）

担当教員：高橋 宏至

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

「保健授業」の現状と課題、目標論、内容論について学習する。

- ①「保健授業の現状と課題」では、学校の教育課程における保健教育の位置、健康に関する指導や総合的学習（探求）の時間との関連、保健担当教師のあり方、中学・高等学校の保健授業の現状と問題点などについて学習する。
- ②「保健授業の目標」では、学習指導要領における目標の変遷と目標観について考察し、保健の科学的認識と健康行動の変容との関係について学習する。
- ③「保健授業の内容」では、学習指導要領の内容の変遷について学習すると共に、内容構成原理を理解する。学習指導要領の内容を概観しつつ批判的に検討する。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①保健授業の現状と課題について理解する。
- ②保健授業の目標について理解する。
- ③保健授業の内容と構成原理について理解する。

学習の進め方

1. テキストの1～3章を中心に学習する。
2. 章ごと、あるいは複数の章の学習を終えたところで関連する文献を調べる。その後、レポート課題を確認し、関係する箇所を改めてテキスト・関連文献に基づき学習する。
3. レポートの下書きを作成し、テキスト・関連文献との整合性等を確認した後、レポートを清書し、提出する。
4. レポート合格後、科目修了試験に向けてテキスト・関連文献によりさらに学習する。

内容

- | | |
|--------------------|-----------------------------------|
| 1. 現代社会における保健教育 | 9. 「保健教科書」教材の検討 |
| 2. 学校教育が担う保健の学力形成 | 10. 教材づくり ①保健における優れた内容・教材とその考え方 |
| 3. 教育課程における保健の位置づけ | 11. 教材づくり ②小・中・高の発達段階における保健教材の考え方 |
| 4. 学習指導要領の変遷と学力観 | 12. 教材づくり ③「わかる授業」の追求と教材づくりのあり方 |
| 5. 学習指導要領の内容構成 | 13. 授業の展開 ①学習授業案づくり（情報機器及び教材の活用） |
| 6. 魅力ある保健の授業像 | 14. 授業の展開 ②授業展開の技術（情報機器及び教材の活用） |
| 7. 「触発・追究型」の保健の授業 | 15. 授業研究 |
| 8. 保健の教科内容と教材 | |

テキスト・参考書

①テキスト 新版・保健の授業づくり入門 森昭三・和唐正勝編著 大修館書店 2009、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 『レポート課題集』参照のこと。

中学校学習指導要領解説 保健体育編 高等学校学習指導要領解説 保健体育編

成績評価

①レポート 全体を100として、課題の理解20%、[ねらい] [アドバイス]の活用20%、学生自身の学習成果40%、レポートとしての完成度20%として評価する。

②科目修了試験 論述形式の評価基準 知識 40% 理解 30% 論理性 30%

その他

現行の中学校、高等学校で使用している教科用図書を熟読すること。

保健科教育法Ⅱ（テキスト）

担当教員： 高橋 宏至

3 年次～ 必修 2 単位

テキスト科目／2025 年度

概要

優れた保健の授業を創りだすための条件と授業研究の方法について学習する。以下の事項について取りあげる。

- (1) 保健の教材づくり…教育内容と教材、教材づくりの視点と方法
- (2) 保健の授業づくり…学習授業案づくりと授業の展開、授業における教師の技量、保健授業の方法
- (3) 保健の授業研究とその評価…授業研究のあり方、保健の評価の考え方と方法

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1, 大学DP2, 大学DP3, 大学DP4, 大学DP5

到達目標

- ①保健の教材づくりの視点と方法について理解する。
- ②保健授業のための学習指導案を作成することができる。

学習の進め方

1. テキストの2～4章を中心に学習する。
2. 章ごと、あるいは複数の章の学習を終えたところで関連する文献を調べる。その後、レポート課題を確認し、関係する箇所を改めてテキスト・関連文献に基づき学習する。
3. レポートの下書きを作成し、テキスト・関連文献との整合性等を確認した後、レポートを清書し、提出する。
4. レポート合格後、科目修了試験に向けてテキスト・関連文献によりさらに学習する。

内容

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 1. 小学校における保健授業 ①これまでの取り組み | 8. 授業書方式による保健授業 ①「授業書」方式とは |
| 2. 小学校における保健授業 ②学習指導要領の内容に対応する実践のあり方 | 9. 授業書方式による保健授業 ②保健授業における展開と課題 |
| 3. 中学校における保健授業 ①これまでの実践に学ぶ | 10. 課題学習による保健授業 |
| 4. 中学校における保健授業 ②「精神機能の発達と自己形成」授業づくりに学ぶ | 11. 行動科学をベースにした保健の授業 |
| 5. 高等学校における保健授業 ①これまでの実践に学ぶ | 12. 小学校における保健の学習授業案づくり（情報機器及び教材の活用） |
| 6. 高等学校における保健授業 ②授業書「新潟水俣病の不思議」の教育内容 | 13. 中学校における保健の学習授業案づくり（情報機器及び教材の活用） |
| 7. 高等学校における保健授業 ③授業書「新潟水俣病の不思議」の分析 | 14. 高等学校における保健の学習授業案づくり（情報機器及び教材の活用） |
| | 15. 保健授業の評価について |

テキスト・参考書

①テキスト 新版・保健の授業づくり入門 森昭三・和唐正勝編著 大修館書店 2009、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 『レポート課題集』参照のこと。

中学校学習指導要領解説 保健体育編 高等学校学習指導要領解説 保健体育編

成績評価

①レポート 全体を100として、課題の理解20%、[ねらい] [アドバイス] の活用20%、学生自身の学習成果40%、レポートとしての完成度20%として評価する。

②科目修了試験 論述形式の評価基準 知識 40% 理解 30% 論理性 30%

その他

指導案の作成において、他教科（社会科・家庭科等）の授業や指導案について情報収集して、良い点を取り入れる等の工夫をして欲しい。

保健科教育法Ⅲ（テキスト）

担当教員： 高橋 宏至

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

望ましい保健授業像を描き、そのような観点から保健授業の実践事例について検討する。

- (1) 保健授業の成立…伝達型授業・解説型授業の問題点、授業が成立するとき、触発型・追求型の授業
- (2) 楽しくてわかる保健授業の条件
- (3) 保健授業実践例の検討…中学校の保健授業、高等学校の保健授業、「授業書」方式による保健の授業
以下の関連雑誌における保健の授業実践について調べること。
「体育科教育」「健康教室」「健」

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

楽しくてわかる保健授業とはどのような授業なのか、自分の考えを述べることができる。

学習の進め方

1. テキストの2～4章を中心に学習する。
2. 章ごと、あるいは複数の章の学習を終えたところで関連する文献を調べる。その後、レポート課題を確認し、関係する箇所を改めてテキスト・関連文献に基づき学習する。
3. レポートの下書きを作成し、テキスト・関連文献との整合性等を確認した後、レポートを清書し、提出する。
4. レポート合格後、科目修了試験に向けてテキスト・関連文献によりさらに学習する。

内容

1. 指導計画について
(年間指導計画、単元計画、本時の指導計画（学習指導案）)
2. 学習指導案の内容構成
3. 中学校における学習指導案づくり
(1)「心身の機能の発達と心の健康」（情報機器及び教材の活用）①
4. 中学校における学習指導案づくり
(1)「心身の機能の発達と心の健康」（情報機器及び教材の活用）②
5. 中学校における学習指導案づくり (2)「健康と環境」①
6. 中学校における学習指導案づくり (2)「健康と環境」②
7. 中学校における学習指導案づくり (3)「傷害の防止」①
8. 中学校における学習指導案づくり (3)「傷害の防止」②
9. 中学校における学習指導
「健康な生活と疾病予防」①
10. 中学校における学習指導
「健康な生活と疾病予防」②
11. 高等学校における学習指導案づくり ①
12. 高等学校における学習指導案づくり ②
13. 授業における学習動機付けについて
14. 良い保健の授業とは何かについて
15. 学習のまとめ

テキスト・参考書

①テキスト 新版・保健の授業づくり入門 森昭三・和唐正勝編 大修館書店 2009、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 『レポート課題集』参照のこと。

中学校学習指導要領解説 保健体育編 高等学校学習指導要領解説 保健体育編

成績評価

①レポート 全体を100として、課題の理解20%、[ねらい] [アドバイス] の活用20%、学生自身の学習成果40%、レポートとしての完成度20%として評価する。

②科目修了試験 論述形式の評価基準 知識40% 理解30% 論理性30%

保健科教育法Ⅳ（夏期スクーリング）

担当教員： 高橋 宏至

3年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

学習者にとって主体的対話的で深い学びが成立するような保健授業を創造するための諸条件を検討すると共に、具体的な実践例をもとにその授業の優れた点や問題点について考察する。

授業の方法

【面接】

講義の後半には学習指導案及び紙やパワーポイントを使った教材等を作成し模擬授業を実施する。ICT教材の有効な活用についても検討する。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①優れた保健授業を支えている諸条件について理解する。
- ②教材づくりの力量を磨く。

授業計画

【第1回】：面接授業

- 1. ガイダンス、保健科教育のめざすもの
- 2. 保健教育をめぐる現状と課題
 - 課題：自身の受けてきた保健教育とその問題点

【第2回】：面接授業

- 3. 学校保健関係の法規について
 - 課題：学校保健関係の法規についてまとめる

(以上1日目)

【第3回】：面接授業

- 4. 保健授業の目標の変遷
 - 課題：学習指導要領解説における中学校、高校における目標の違いについての分析

【第4回】：面接授業

- 5. 保健授業でめざす能力・学力
 - 課題：参考書等をもとに、保健授業で期待される学力とはどのようなのかをまとめる

【第5回】：面接授業

- 6. 保健授業の内容の構成原理・原則
- 7. 新学習指導要領の保健教育内容の改訂点の検討
 - 課題：新学習指導要領における「技能」の評価についてどのような工夫や配慮が必要かをまとめる

(以上2日目)

【第6回】：面接授業

- 8. 指導と評価の一体化、評価と評定
 - 課題：評価と評定の違い、評価規準についてまとめる

【第7回】：面接授業

- 9. 授業中における教師行動について
 - 課題：教師の言葉かけ、机間指導、板書等の授業中の教師行動についてまとめる

(以上3日目)

【第8回】：面接授業

- 10. 保健教材づくり、内容と教材、教材づくりの視点と方法（情報機器及び教材の活用）①
 - 課題：1つの内容を取り上げ、学習指導案を作成する

【第9回】：面接授業

- 11. 保健教材づくり、内容と教材、教材づくりの視点と方法（情報機器及び教材の活用）②

○課題：1つの内容を取り上げ、学習指導案を作成する

【第10回】：面接授業

12. 保健教材づくり、内容と教材、教材づくりの視点と方法（情報機器及び教材の活用）③

（以上4日目）

【第11回】：面接授業

13. 学習指導案および教材作成をし、模擬授業を実施する①

○課題：自身の模擬授業の自己評価および、楽しくてわかる保健授業を創造するためにはどのような工夫が必要かについて討議をしてまとめる

【第12回】：面接授業

14. 学習指導案および教材作成をし、模擬授業を実施する②

○課題：自身の模擬授業の自己評価および、楽しくてわかる保健授業を創造するためにはどのような工夫が必要かについてまとめる

【第13回】：面接授業

15. 学習指導案および教材作成をし、模擬授業を実施する③

○課題：自身の模擬授業の自己評価および、楽しくてわかる保健授業を創造するためにはどのような工夫が必要かについてまとめる

（以上5日目）

【第14回】：面接授業

16. 学校保健及び学校安全（防災・防犯・交通安全）についての現代的課題

○課題：学校保健及び学校安全についての実践的な知識を修得し、自身の今後に生かす点をまとめる

【第15回】：面接授業

17. 今までの授業のまとめ

○最終レポート課題：授業を通して学んだ事、自身の模擬授業の自己評価および楽しくてわかる保健授業を創造するためにはどのような工夫が必要かについてまとめる

（以上6日目）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

学習指導案作成、模擬授業を行うため、中学校か高等学校の保健授業の学習内容において、興味がある内容を1つ決めておき、学習指導要領（解説）を熟読するとともに、できる限りの資料を収集しておいてください。毎回の課題や学習指導案作成のために、1時間程度の資料収集、予習をしておいてください。

②使用教科書 中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29、高等学校学習指導要領解説 保健体育編 平成30、新版・保健の授業づくり入門 森昭三・和唐正勝編 大修館書店 2002

③参考書 特になし

④準備するもの 新版・保健の授業づくり入門 森昭三・和唐正勝編 大修館書店 2002

中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29、高等学校学習指導要領解説 保健体育編 平成30

※第8回・9回・10回は学習指導案および教材を作成するので、マジック、定規、はさみ、のり、色鉛筆等を必要な物を持参してください。（詳細は授業の中で説明します）

*学習指導要領解説は、プリントアウトするか、購入しておくとう理解が深まります。

⑤成績評価 授業参加・模擬授業50%、指導案・レポート50%で評価する

⑥学生へのメッセージ 現行の中学校・高等学校で使用している教科用図書を熟読してから受講してください。

⑦追試験 対象外科目

家庭科教育法Ⅰ (テキスト)

担当教員： 天野 晴子・鎌田 浩子

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

家庭科は、よりよい生活の実現に主体的にかかわる生活者を育てることを目指す教科である。その力をつけるには、生活の知識・理解だけでは不十分であり、生活の課題を発見し、問題の所在を見極め、その解決に向けて考え実践する力を培うことが大切である。本科目では、そうした力を育む家庭科カリキュラムの構想、生活をめぐる諸課題、さらに生活主体を育む授業の計画と実践について理解を深めることを目的とする。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1, 大学DP2, 大学DP3, 大学DP4, 大学DP5

到達目標

- ①学習指導要領を理解するとともに、生活主体を育む家庭科カリキュラムの学習課題(目標)や学習領域・内容などの学習の枠組みや、生徒の学びの構造を説明できる。
- ②家庭科が学習対象とする現代の生活問題の現状と課題について認識する。
- ③主体性を育み、対話的で深い学びの実現に向けて、家庭科の授業内容を具体的に考え例示することができる。

学習の進め方

テキストはノートを取りながら熟読したのち、レポート課題に着手する。課題1はテキスト第Ⅰ部、課題2はテキスト第Ⅱ・Ⅲ部が主に関係するが、特定箇所だけでなくテキスト全体を読んで理解を深めること。科目修了試験にむけては、上記の到達目標を意識し、「学習の手引」を参照しながらテキスト全体をよく理解しておくこと。

内容

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1. 学習指導要領の改訂と家庭科で育てたい資質・能力 | 8. 家庭科の4つの視点とSDGs(3)生活文化の継承・創造、(4)持続可能な社会の構築 |
| 2. 「探究的で深い学び」をつくる家庭科のカリキュラム・デザイン | 9. 現代的な生活課題と授業化のポイント(1)家族・生活設計、(2)子ども、高齢者の生活と福祉・共生 |
| 3. 「探究的で深い学び」の授業を構想する | 10. 現代的な生活課題と授業化のポイント(3)食生活、(4)住生活 |
| 4. 「探究的で深い学び」を生み出す学習の方法 | 11. 現代的な生活課題と授業化のポイント(5)衣生活、(6)消費生活 |
| 5. 「探究的で深い学び」を評価する | 12. 探究的で深い学びの授業(1)特徴と事例1～5 |
| 6. 「探究的で深い学び」を引き出す地域に開かれた授業活動 | 13. 探究的で深い学びの授業(2)事例6～9 |
| 7. 家庭科の4つの視点とSDGs(1)協力・協働、(2)健康・快適・安全 | 14. 家庭科と・他教科・諸科学との関連 |
| | 15. まとめ |

- ①テキスト ①SDGsと家庭科カリキュラム・デザイン(増補版) 荒井紀子他編著 教育図書 2022、学習の手引
②中学校「技術・家庭」学習指導要領・高等学校「家庭」学習指導要領(「学習の手引」に掲載)
テキスト一覧(『履修の手引』に掲載)を必ず参照のこと。
- ②参考書 ①新版 生活主体を育むー探究する力をつける家庭科 荒井紀子編 ドメス出版 2021
②未来の生活をつくるー家庭科で育む生活リテラシーー 日本家庭科教育学会編 明治図書 2019
③生活をデザインする家庭科教育 堀内かおる編 世界思想社 2020

成績評価

- ①レポート 全体を100として、課題の理解50%、学生自身の学習成果30%、「アドバイス」の活用10%、レポートとしての完成度10%を目安に評価する。
- ②科目修了試験 論述形式の出題とし、知識40%、理解30%、論理性30%を目安に評価する。

その他

レポート及び科目修了試験では、テキストの理解が問われるので、テキストをよく読んでください。その際、テキストの読み方を「学習の手引」に記載しているので、必ず「学習の手引」を参照しながら学修を進めて下さい。

家庭科教育法Ⅱ（テキスト）

担当教員： 大矢 英世

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

家庭科の学習内容や目標にそった適切な教材を準備する力量を身につけることを目的とする。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1, 大学DP2, 大学DP3, 大学DP4, 大学DP5

到達目標

- ① 学習指導要領の目標や学習内容を理解し、生徒の状況に応じた適切な教材と授業法を考えることができるようになる。
- ② 学習の流れに適する教材を作成することを通して、授業構成力を養う。
- ③ 家庭科の評価について理解する。

学習の進め方

1. テキストや参考書を読み、授業において使用する教材によって生徒の学びが相違することを理解し、学びが深められる教材を自分自身でオリジナルに考案できるようにする。小学校ではなく、中・高の内容についてレポートにはまとめる。
2. 授業のめあてにそった教材を考える。
3. テキストを理解し、新たな授業展開例を示せるように深める。（レポート課題にテキストの例示をそのまま写さないこと）
テキストには小学校の内容も入っているので注意し、学習内容として重なる部分はあるが、発達段階を考慮して中高の家庭科について提案すること。（テキスト84ページの第一条件の②は教員が準備する教材に適する条件ではないので削除してください）
科目終了試験に向けては、以下に示す内容項目について、レポートで作成したように各自文章にまとめておくことよい。

内容

1. 中学生および高校生が、実感をもって学びを深めることのできる教材を具体的に考案する。
2. 教材の状態による生徒の学びの方向性の違いを例をあげて説明する。（その際、家庭科の教材から得られる学びとして、徳目的な「感謝」を論じることは避け、本質的な違いを述べること）
3. わかりやすく伝えるための教材を考え、どのような点がわかりやすいのか説明する。
4. 被服や住まいにかかわる社会課題を考える学びについて説明する。
5. 食と健康にかかわる教材を提案する。
6. 写真または新聞記事を活用した授業を作り、そこで展開される学びを確認する。
7. 科学的視点を育む教材について具体的に例をあげてその教材がどのようなものでどのように授業で用いるのか説明する。
8. 生徒が自分の生活設計を考えるための教材を考える。
9. 生徒が実感を伴って学ぶことができる消費生活の教材を提案する。
10. 多様な価値をぶつけ合う参加型授業を具体的に考える。
11. 家庭科の複数の領域をつなげるとは、どのような意味をもつのか説明できるようにまとめ、具体的に授業例をあげる。
12. 家庭科におけるディスカッション、ディベート、ロールプレイングについてその具体的方法や特徴の違いを説明する。
13. 家庭科の中で学校外の人と交流することの意義を具体的にまとめる。
14. 指導と評価の一体化について、授業の中でどのようなことを指しているのかまとめる。
15. 生徒の発達段階をふまえた教材と授業づくりについて、これまでの学びの復習をする。

テキスト・参考書

①テキスト 教科教育シリーズ07 家庭科教育 大竹美登利編著 一藝社 2015

（学習指導要領解説は、文部科学省ホームページからも参照できる）

テキスト一覧（「履修の手引」に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 ①家教連 家庭科研究 NP0 家庭科教育研究者連盟編 子ども未来社 偶数月発行

②生活からはじめる教育 コロナ禍が教えてくれたこと 生活の学びの研究会著 開隆堂

- ③「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭 国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 2021 (ネットでの閲覧可)
- ④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭科 国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東洋館出版社 2020 (ネットでの閲覧可)

成績評価

- ①リポート ○課題の趣旨に沿った内容がまとめられているか (50%)。
- 学習目標に沿い、授業の流れや方法にふさわしい教材のあり方を理解し、提案できているか (50%)。
- ②科目修了試験 ○教材や指導方法などによる学びの違いを理解できているか (30%)。
- 生徒の発達段階に合わせた学習目標にそった教材や学習方法の提案ができているか (30%)。
- 生徒が主体的に学ぶ家庭科の授業づくりを意識した提案ができているか (40%)。

家庭科教育法Ⅲ（テキスト）

担当教員： 大矢 英世

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

生徒の実態を踏まえ、思考の深化を促す、単元（題材）計画を作成し、授業のめあてを体現する授業構想をし、その学習展開が他人に伝わる指導案を書く能力を養う。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①学習指導要領および解説の内容を理解した上で、生徒の実態に目を向け、思考の深まる単元（題材）指導計画をたてることができる。
- ②授業のめあてを達成できる学びが展開される授業を計画し、授業の流れ、生徒の動き、教材の示し方をわかりやすく示すことができるようになる。
- ③暮らしの変化、多様な生き方を反映させ、生徒が意欲的に主体的に取り組む家庭科の授業づくりができるようになる。

学習の進め方

1. 基本となる学習指導要領解説、テキストや参考書や研究会発行の雑誌で多くの実践例にふれ、様々な授業の工夫を理解する。
2. 実践事例をそのまま模倣するのではなく、暮らしの変化や家族の多様化など生徒の現状を踏まえて授業の目的にあったリアリティのある学びを引き出す授業を自身で考案する。（先行事例の寄せ集めではなく、オリジナルに授業案を考えられるように学びを深める）
3. 実際に自分の作成した学習指導案をもとに、50分をはかって模擬授業を行ってみる。
4. 表面的な模範回答を引き出すだけの授業ではなく、生徒が学ぶ意義の感じられる授業内容になっているか、検討する。
修了試験に向けては、次に示す項目内容について、各自で文章にまとめておくこと。

内容

- | | |
|--|---|
| 1. 学習指導要領解説をもとに基本となる必修科目の全体像を掴む。 | 10. 複数の領域をつなげた授業の指導計画、指導案を書く |
| 2. 学習指導要領の解説で、特に家庭科の学習の導入時に指定された学習内容について理解する | 11. 交流を取り入れた授業の指導案を書く |
| 3. ある単元の学習指導計画、及び本時の詳細な指導案を書く | 12. 環境問題を意識した授業を考案する |
| 4. 指導計画にそった3観点の評価規準を作成する | 13. ケアの視点を入れた学び（子育て・介護問題の学習）を構想する |
| 5. 中学校家庭分野の3年間の指導計画および高等学校家庭基礎の年間指導計画を立てる | 14. 多様な家族・多様な生活に配慮した指導計画を考える |
| 6. 安全・安心な視点から生活を見つめる家庭科の指導案を書く | 15. 現代的な社会問題とつなげ、発展的な探究につながる単元計画および指導案を構想する |
| 7. 実験を取り入れた授業の指導案を書く | |
| 8. ディベートとディスカッションの違いを理解した上で、それらを取り入れた指導案を書く | |
| 9. ジェンダー平等について考える授業の指導案を書く | |

テキスト・参考書

①テキスト 教科教育シリーズ07 家庭科教育 大竹美登利編 一藝社 2015

テキスト一覧（「履修の手引」に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書

- ①家教連 家庭科研究 NPO 家庭科教育研究者連盟編 子ども未来社 偶数月発行
- ②高等学校学習指導要領解説家庭編 文部科学省 教育図書 2018 （文部科学省HPでも閲覧できる）
- ③中学校学習指導要領解説技術・家庭編 文部科学省 教育図書 2017 （文部科学省HPでも閲覧できる）
- ④「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 家庭 国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 2021 （文部科学省HPでも閲覧できる）
- ⑤「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 技術・家庭科 国立教育政策研究所教育課

成績評価

- ①リポート ○学習指導要領解説を読み込み、重要ポイントを理解できているか (50%)。
○設問で指定した項目を満たした中学校または高等学校の指導案がまとめられているか (20%)。
○指導案をもとに 50 分で実際に授業が成立するか検討を加え、現代の中学または高校生に対してリアリティのある授業計画がたてられているか (30%)。
- ②科目修了試験 ○必要事項を満たした授業の流れがよく分かる指導案が表現できているか (30%)。
○設問のテーマに沿って表面的な学びではなく、生徒がいきいきと取り組む授業が考案できているか (40%)。
○生徒の思考の深まりを意識した授業づくりができているか (30%)。

家庭科教育法Ⅳ（夏期スクーリング）

担当教員： 轡田 徳子

3年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2025年度

概要

「家庭科教育法Ⅰ」・「家庭科教育法Ⅱ」で学習したことを基盤に家庭科教育の意義を認識し、授業案を作り、模擬授業を行う。家庭科教育の理論を実践に移すことにより、展開方法を学ぶ。

授業の方法

【面接】

学位授与方針との関係

大学DP3

到達目標

- ①学習指導要領における家庭科教育の目標や内容を理解し、生徒の資質や能力を育成するために必要な教材の選択ができる。
- ②指導上の留意点を理解し、生徒の発達段階に応じて思考、学力等の実態を考慮した授業設計ができる。
- ③情報機器の活用を理解し、指導案によっては、効果的に用いる場面を想定できる。
- ④生徒を中心にした生活課題を設定し、授業設計を考え、学習指導案を作成することができる。
- ⑤模擬授業を経験し、その振り返りを通して、改善点や課題に気づき、発展的内容に取り組むことができる。

授業計画

1日目

イントロダクション（事前課題を受け取る。スクーリング期間の授業の概要を説明する。）

1. 家庭科の現状について話し、今後の課題について探る。
2. 家庭科教育の歴史を振り返り、家庭教育と家庭科教育の違いについて話し、日本の家庭科教育は世界と比較して、どのような点が優れているのかなどを通して、家庭科教育の意義を深める。
3. 事前課題の授業案を各自確認し、内容が家庭科教育の意義に沿っているか、目標が授業の内容に対して明確になっているか振り返る。

2日目

4. 学習指導要領とは何か、これまでの改訂の歴史を振り返る。
5. 新教育課程の特徴と変更点について説明する。（観点別評価、高校の「投資」について）
6. 学習指導要領の特徴（目標、評価、留意点など）について話し、これからの家庭科教育の方向性を考えて、生活課題を発見する。少人数のグループを作り、「生徒を中心においた現代の生活課題」は何かを討議し、いくつかの大きなテーマに分類し、発表する。

3日目

7. 2日目のグループ学習を発展させる。具体的には「生活課題」を生徒に考えさせるために、その教材づくりの視点を大きなテーマごとに括り、その方策を探る。
8. 新年度、家庭科を通じて生徒と初めての出会いの場となる「授業開き」において、どのような手法で臨むことが、生徒を家庭科教育に惹きつけることができるかを考え、その構想をグループで話し合う。
9. 特徴をもった既存の授業実践を紹介し、その授業分析（導入→展開→まとめ）を行い、授業の流れ、生徒の反応や動きをイメージできるようにする。添削した事前課題（初日に提出されたもの）を必要に応じ返却する。

4日目

10. 事前課題で考えてきた素案を見直す。テーマの確認、目標が明確になっているか、対象学年に相応した内容であるかを確認する。方略に悩んだ場合は、個別に適宜相談に応じる。
11. 教材・教具を準備し、時間配分を考えた指導構成を考え、学習指導案を完成させる。各自、板書、発問の仕方などシナリオを考え、練習する。その過程において、効果的な授業の進め方等の指導を個別に行う。

5日目

12. 模擬授業を行う。
13. 模擬授業終了後、学生同士で、良い点、改善点などを出し合う。各自、模擬授業の本時を振り返り、課題を見つけ、今後の指導

案づくりに活かす。内容によっては、さらに発展的な授業案を想定する。

6 日目

14. 模擬授業を終えて、学生（仲間）や指導者からのアドバイスを受けての補足や感想、今後活かす点などを発表する。
15. 模擬授業の講評を行う。
16. 振り返りのレポートをまとめ、提出する。

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

生きていること、生活していること全てが学修のステージです。持続可能な社会や人間関係（ジェンダー平等を含む）、多様な性、現代の家族、家庭が抱える問題に敏感になってください。新聞、ニュース、雑誌など多くの情報から、生徒に身につけさせたい力は何か、整理しておいてください。

言うまでもない情報社会の中で、指導案がインターネット上に掲示されています。模擬授業でそれを使うことは禁止です。あくまで、皆さんの力で授業案を組み立てましょう。

研究団体が既成のカード、教材などを出していますが、それをそのまま使って授業することは禁止です。あくまで、皆さんの力で授業案を組み立ててください。

事前課題

- ①教科書を読み、共感を得たところ、感動したところの一項目を選んで感想を書く。また、反対に疑問に感じたところ（なければ無理に書かなくて可）の感想を書く。
- ②生徒に考えさせ、身につけさせたい学力を考えて、授業案の構想を練り、指導過程を記す。（テーマ、目標、対象学年、指導過程、本時の流れなど素案で可）
- ① ②をA4用紙それぞれ1枚程度にまとめ、授業初日に提出する（控えとして1部は持っていること）。ワープロ、手書き、どちらでも可

②使用教科書 生きる力をそなえた子どもたち 日本家庭科教育学会 学文社 2013

授業で使用するプリントは、スクーリング時に配布します。

③参考書 18歳選挙時代の主権者教育を創る 教育科学研究会編 新日本出版 2016

日本の伝統の正体 藤井青銅 柏書房 2017

雑誌 家庭科研究 NPO 法人家庭科教育研究者連盟編 子どもの未来社 偶数月発行
求められる家庭科の変革 高校家庭科教科書検討会 ドメス出版 2023

④持参するもの

- ・指定の教科書 『生きる力をそなえた子どもたち』
- ・模擬授業で使用する教科書を統一します。下記の教科書を持参してください。
表紙の番号を確認してください。これが現行の教科書です。
中学生を対象とした授業を行う方は、技術・家庭 家庭分野
高校生を対象とした授業を行う方は、家庭基礎
家庭総合
- ・模擬授業を行うために必要と思われる教具や文具
- ・名札（ラベルシールのようなもので構いません）模擬授業時に生徒を演じるときに、授業者に分かりやすく表示できるもの。

9	家庭
開隆堂	703

9	開隆堂	家基 708
9	開隆堂	家総 704

いずれか1冊

⑤成績評価 模擬授業（40%）、事前課題及び最終振り返りレポート（40%）、授業への取り組み（20%）

⑥学生へのメッセージ

知識も技術も大切な教科ですが、より大切なのは、ものを観る目です。

manaba を有効に利用しましょう。

manaba にメンバー登録が完了しましたら、質問がある方は、遠慮なく manaba の掲示板で質問してください。皆さんで共有して行きましょう。

また、スクーリングが始まる1週間くらい前にmanaba を通して連絡を送ります。その時期になりましたら、リマインドメールも気にして、必ず目を通して参加してください。

⑦追試験 対象外科目

教育学概論 1 (テキスト)

担当教員： 樋田 有一郎

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025 年度

概要

この科目では、教職を目指す人が、教育の基本的概念、教育の歴史や思想、教育実践、教育が直面する諸課題について学ぶことを目的とする。教育は、経済や社会や文化の影響を受ける複雑な現象であり、教職を目指す人にとって、教育や学校の役割について、多角的な視点から学ぶことは有用である。学習を通じて、これまで受けてきた個人の教育の経験を振り返りつつ、教育学の理論と実践を往還しながら、自身の教育に対する考えを深めていくことを目指す。

授業の方法

【印刷教材等】

授業は指定されたテキストと学習の手引きを読むことおよびレポート課題に取り組むことによって進める。また、積極的に疑問点について質問することが推奨される。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①教育の概念や教育を成り立たせる諸要因を理解し、説明できる。
- ②教育に関する思想や歴史と現代の教育及び学校が直面する課題との関係を理解し、説明できる。
- ③教育に対する自身の考えを育て、教育学の理論を用いて説明できる。

学習の進め方

1. テキストの章やunit ごとに学習を進める。
2. テキストの章やunit 末の確認問題を解く。
3. あげられている参考文献の紹介を読み、興味のあるものを読む。
4. 関連する教育に関するニュースや自身の教育体験を振り返り、学んだ理論を使って分析し説明することを試みる。
5. リポート課題を確認し、各課題についてテキスト及び参考文献に基づき学習する。
6. リポートの構成、記述の仕方を検討し、リポートを作成し提出する。
7. 科目修了試験に向けてテキスト・参考文献により学習する。

内容

- | | |
|--|---|
| 1. 教育と子ども（教育とは何か） | 9. ペダゴジーの遂行(2)（生活指導／教育相談） |
| 2. 教育と子ども（子ども観／人間の発達と教育） | 10. ペダゴジーの担い手（教師の力量とアイデンティティ形成／教職の専門職化） |
| 3. 教育と社会（学校とは何か／国民国家と教育） | 11. 教育の制度（教育行政と学校の統治／教育における法と政治） |
| 4. 教育と社会（社会変動と教育） | 12. 教育の接続（学校接続と中等教育／高等教育） |
| 5. 教育の目的（近代の教育思想） | 13. 教育の接続（進路指導／キャリア教育／社会教育と生涯学習） |
| 6. 教育の目的（ジェンダーとセクシャリティ／リテラシーと教養） | 14. 共生の教育（子どもの学習と参加の権利／多文化教育／特別ニーズ教育／インクルーシブ教育） |
| 7. ペダゴジーのグランドデザイン（学ぶということ／目標・評価・学力／カリキュラム開発） | 15. 共生の教育（グローバリゼーションと教育開発／シティズンシップ） |
| 8. ペダゴジーの遂行(1)（学習の過程と形態／メディアとしての教科書） | |

テキスト・参考書

①テキスト 教育学をつかむ【改訂版】 木村元・小玉重夫・船橋一男 有斐閣 2019、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 テキスト掲載の参考文献の他に、様々な教育学の思想家の原典にあたることもよいでしょう。

成績評価

- ①リポート リポートでは、課題の理解、「ねらい」・「アドバイス」の活用、学習成果、リポートの完成度などを総合して評価する。
- ②科目修了試験 課題の理解：30%、概念及び理論の理解：40%、論理性：30%とする。

その他

「学習の手引」を一読してから課題に取り組むこと。

教育学概論2 (テキスト)

担当教員：山下 絢

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

この科目では、教職を目指される方が、教育の歴史、理論、データ、実践について学ぶことを目的としています。具体的には、教育と社会や歴史との関係をふまえて、教育学における主要概念や理論といった教育学の原理を学ぶとともに、学習や教材、教師などの問題について考察し、さらに教育制度や社会教育、生涯学習、教育をめぐる現代的な諸課題など多面的に学びます。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

教育学をめぐる基礎的な概念、理論、トピックについて理解を深める。

学習の進め方

1. テキストの章ごとに学習を進める。
2. リポート課題を確認し、各課題についてテキスト及び参考文献に基づき学習する。
3. リポートの構成、記述の方法を検討し、リポートを作成し提出する。
4. リポート合格の場合は、科目修了試験に向けた学習に取り組む。リポート不合格の場合は、指摘された点を確認し、改めてテキストや参考文献を検討しリポートを作成、再提出を行う。
5. 科目修了試験に向けてテキスト、参考文献により学習する。
6. 科目試験不合格となった場合は次回の科目修了試験に備えて学習する。

内容

- | | |
|---|--|
| 1. 教育と子ども | 9. ペタゴジーの遂行(2)生活指導／教育相談 |
| 2. 教育と社会(1)学校とは何か | 10. ペタゴジーの担い手 |
| 3. 教育と社会(2)国民国家と教育／社会変動と教育 | 11. 教育の制度 |
| 4. 教育の目的(1)近代の教育思想 | 12. 教育の接続(1)学校接続と中等教育／高等教育 |
| 5. 教育の目的(2)ジェンダーとセクシュアリティ／リテラシーと教養 | 13. 教育の接続(2)進路指導・キャリア教育／社会教育と生涯学習 |
| 6. ペタゴジーのグランドデザイン(1)学ぶということ／目標・評価・学力 | 14. 共生の教育(1)子どもの学習と参加の権利／多文化教育／特別ニーズ教育・インクルーシブ教育 |
| 7. ペタゴジーのグランドデザイン(2)カリキュラム開発 | 15. 共生の教育(2)グローバリゼーションと教育開発／シティズンシップ |
| 8. ペタゴジーの遂行(1)学習の過程と形態／メディアとしての教科書/学びの空間のデザイン | |

テキスト・参考書

① テキスト

木村元・小玉重夫・船橋一男(2019)『教育学をつかむ 改訂版』有斐閣、『学習の手引』

テキスト一覧(『履修の手引』に掲載)を必ず参照のこと。

② 参考書

『学習の手引』を参照して下さい。

成績評価

① リポート

リポートでは、課題の理解、「ねらい」・「アドバイス」の活用、学習成果、リポートの完成度などを総合して評価する。

② 科目修了試験

課題の理解：30%、概念および理論の理解：40%、論理性：30%とする。

その他

各内容やリポート、試験の取り組みの要点は『学習の手引』を参照して下さい。

教職基礎論 1 (テキスト)

担当教員：守山 紗弥加

2 年次～ 必修 2 単位

テキスト科目／2025 年度

概要

本科目では、現代における教職の意義や使命、教員に必要な素養、資質・能力、学校教育を取り巻く複雑な実態等、これから教職についての学習を始めるに当たって必要な基礎的な知識を深め、幼稚園や小学校教師としての態度・心構えを築いていくとともに、自己をみつめる機会とする。

それらの学修を通して、教師や公教育を取り巻く困難な状況や問題等、現実に関心を向けながらも、希望を持って学び続けることのできる姿勢を育む。

授業の方法

【印刷教材等】

学生が、テキストを熟読した後、レポート課題に着手し、参考文献にもあたりながら、レポートを作成する。レポートについて、添削・指導をする。その指導内容について、学生自らが自身の特質や課題を見出し、力量の向上を図る。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①教職に関する基礎的な知識を習得し、職責の重さを理解する。
- ②現代における教育の現状と課題について理解し、それに対する自己の考えを持ち、問題解決力を高める。

学習の進め方

- 1. テキストの章ごとに内容を理解し、示されている参考文献を読み、関連した事項を学習する。
- 2. 世間一般に報じられている教育に関する出来事（政策から事件まで）に広く関心を持ち、1 で得た知識と関連付け、自分の考えを持つ。
- 3. 現代における様々な教育課題について、自分の考える課題解決のシナリオ、具体的な解決方法を、文献研究やホームページ検索、教育関係者に話を聞く等を通してまとめる。
- 4. ただし、様々な見解があるので、一面的な考えに流されぬよう多面的に集め、判断する。
- 5. レポートの課題文や課題のねらい、アドバイスを熟読し、何を問われているか、何を答えるべきか、どのように論述をして読み手を納得させるか、等見通す。
- 6. 自分の考えや、考察、解決策を正しい日本語で、常体で書き表す。書いたものを何度も読み返し、文章として筋道は通っているか、意味不明な語はないか、前後に齟齬を来していないか等推敲する。
- 7. レポートが不合格の場合は、添削のアドバイスとともに、上記 1. ～6. に照らして自分の勉強の仕方を含めて振り返る。
- 8. 科目修了試験までの準備学習は、「生きる力」を育てる授業の在り方、生活指導上の諸問題についての対応策、学習意欲を高める学習指導の在り方、特別支援教育の現状と課題、各課題に対する教師の力量形成のあり方等それぞれについて自分の考えをまとめ、文章化してみる。そして、自分が教壇に立った時を想定し、具体的方策や対応策に立脚した説得力ある論述になっているか、文章を練る作業を繰り返す。

内容

- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1. 教職の意義 | 10. すべての教師が参画する学校経営 |
| 2. 教育の歴史 | 11. 研修と教師のライフステージ |
| 3. 教育実習とそこに至る学び | 12. 教師に求められる資質・能力、職務内容を含む |
| 4. 教職免許状と教職への進路 | 13. 今日の教育課題 |
| 5. 「生きる力」をはぐくむ授業をつくる | 14. グローバル化社会における教師 |
| 6. 学級通信からみた学級経営 | 15. 保護者、地域住民や諸機関との連携・協力、チーム学校 |
| 7. 生き方指導としての生徒指導・進路指導 | |
| 8. 特別活動の意義とその指導 | ※科目修了試験に向けて各自課題を設定し、論文の書き方に習熟しておくこと。 |
| 9. 『困っている子』として捉える特別支援教育 | |

テキスト・参考書

①**テキスト** これからの学校教育と教師 ミネルヴァ書房 2014、学習の手引

テキスト一覧（「履修の手引」に掲載）を必ず参照のこと。

②**参考書** 幼稚園・小学校 それぞれの学習指導要領と各総則

文部科学省ホームページ

「レポートや論文の書き方」のような書には必ず目を通して欲しい。

成績評価

①**レポート** ①課題文に正対した論文になっているか。②文献の読み込み、データの収集は十分か。③自分の考えを中心に、論理的に一貫性があるか。④正しい日本語表記になっているか。⑤課題解決の具体策に妥当性があるか。以上の5観点から評価する。いずれも、6割以上を合格とする。

②**科目修了試験** レポートの評価に準じる。

その他

個性的な造語、文献の引用継ぎはぎ、具体策の乏しい評論家的な意見、文章として理解しがたいレポートが散見される。情報（テキストやその他文献）の正確な理解とともに、自分の考えをしっかりと持ち、読み手を納得させることができる表現力が大切である。

教職基礎論 2 (テキスト)

担当教員：守山 紗弥加

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025 年度

概要

本科目では、現代における教職の意義や使命、教員に必要な素養・資質・能力、学校教育を取り巻く複雑な実態等、これから教職について学習を始めるに当たって必要な基礎的な知識を深め、中学校・高等学校の教師としての態度・心構えを築いていくとともに、自己をみつめる機会とする。

それらの学修を通して、教師や公教育を取り巻く困難な状況や問題等、現実にも目を向けながらも、希望を持って学び続けることのできる姿勢を育む。

授業の方法

【印刷教材等】

学生が、テキストを熟読した後、レポート作成に着手し、参考文献にも当たりながら、レポートを作成する。レポートについて、添削・指導をする。その指導内容について、学生自らが自身の特質や課題を見出し、力量の向上を図る。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①教職に関する基礎的な知識を習得し、職責の重さを理解する。
- ②現代における教育の現状と課題について理解し、それに対する自己の考えを持ち、問題解決力を高める。

学習の進め方

1. テキストの章ごとに内容を理解し、示されている参考文献や演習問題にあたる。
2. 世間一般に報じられている教育に関する出来事（政策から事件まで）に広く関心を持ち、1で得た知識と関連付け、自分の考えを持つ。
3. 現代における様々な教育課題について、自分の考える課題解決のシナリオ、具体的な解決方法を、文献研究やホームページ検索、教育関係者に話を聞く等を通してまとめる。
4. ただし、様々な見解があるので、一面的な考えに流されぬよう多面的に集め、判断する。
5. レポートの課題文や課題のねらい、アドバイスを熟読し、何を問われているか、何を答えるべきか、どのように論述をして読み手を納得させるか、等見通す。
6. 自分の考えや、考察、解決策を正しい日本語で、常体で書き表す。書いたものを何度も読み返し、文章として筋道は通っているか、意味不明な語はないか、前後に齟齬を来していないか等推敲する。
7. レポートが不合格の場合は、添削のアドバイスとともに、上記1.～6.に照らして自分の勉強の仕方を含めて振り返る。
8. 科目修了試験までの準備学習は、「生きる力」を育てる授業の在り方、生活指導上の諸問題についての対応策、学習意欲を高める学習指導の在り方、特別支援教育の現状と課題、各課題に対する教師の力量形成のあり方等それぞれについて自分の考えをまとめ、文章化してみる。そして、自分が教壇に立った時を想定し、具体的方策や対応策に立脚した説得力ある論述になっているか、文章を練る作業を繰り返す。

内容

- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1. 教職の意義 | 10. すべての教師が参画する学校経営 |
| 2. 教職の歴史 | 11. 研修と教師のライフステージ |
| 3. 教育実習とそこに至る学び | 12. 教師に求められる資質・能力、職務内容と服務 |
| 4. 教職免許状と教職への進路 | 13. 今日教育課題 |
| 5. 「生きる力」をはぐくむ授業をつくる | 14. グローバル化社会における教師 |
| 6. 学級通信からみた学級経営 | 15. 保護者、地域住民や諸機関との連携・協力、チーム学校 |
| 7. 生き方指導としての生徒指導・進路指導 | |
| 8. 特別活動の意義とその指導 | ※科目修了試験に向けて各自課題を設定し、論文の書き方に習熟しておくこと。 |
| 9. 『困っている子』として捉える特別支援教育 | |

テキスト・参考書

①**テキスト** 教職に関する基礎知識 第3版 八千代出版 2021、学習の手引

テキスト一覧（「履修の手引」に掲載）を必ず参照のこと。

②**参考書** 中学校・高等学校 それぞれの学習指導要領と各総則

文部科学省ホームページ

「レポートや論文の書き方」のような書には必ず目を通して欲しい。

成績評価

① レポート

①課題文に正対した論文になっているか。②文献の読み込み、データの収集は十分か。③自分の考えを中心に、論理的に一貫性があるか。④正しい日本語表記になっているか。⑤課題解決の具体策に妥当性があるか。以上の5観点から評価する。いずれも、6割以上を合格とする。

② **科目修了試験** レポートの評価に準じる。

その他

個性的な造語、文献の引用継ぎはぎ、具体策の乏しい評論家的な意見、文章として理解しがたいレポートが散見される。情報（テキストやその他文献）の正確な理解とともに、自分の考えをしっかりと持ち、読み手を納得させることができる表現力が大切である。

教育社会学1 (テキスト)

担当教員：柳 煌碩

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025 年度

概要

この科目では、学校教育をはじめとする「教育」という仕組みが、社会において持つ役割や意味について、教育社会学のこれまでの研究の知見をもとに学びます。社会変動の中でその意味を変化させてきた教育の役割について、それを説明することを試みる理論や、社会の実態を示すデータの検討を通じて理解することを目指します。その際、学校教育の社会における意義と社会変容に伴う教育政策の変遷、学校とそれを取り巻く地域社会・家族の関わり、社会の安全という視点からみた学校教育、といった観点から学びを深めていきます。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

教育社会学は方法・対象共に多岐にわたります。下記の3つの到達目標に向けてテキストにしたがって学習を進めていただきます。

- ①家庭や学校における発達・社会化について理解できる
- ②学校教育制度・文化の社会的機能について理解できる
- ③教育におけるジェンダー不平等について理解できる

学習の進め方

1. テキスト（最新版）を読み込んでください。その際、各章の「問い」は何か、「問い」に対する答えを導くためにとられている方法は何か、その方法によって得られた知見は何か、を整理しながら読むとよいでしょう。各章とも3回程度読むことが望ましいです。1回目はとにかく通読し、2回目は筆者の「問い」に即して、3回目は自分の知識や関心と関わらせて読むのがコツです。このような読み方をすることにより、レポートの完成度が高まります。
2. リポート課題を確認して、あらためてテキストを参照して、リポートを作成・提出してください。リポートを提出する前に、誤字脱字や論理が一貫しているかなど、作成した文章をもう一度見直すこと。
3. リポート合格の場合は、科目修了試験に向けて、テキストを読み直してください。リポート不合格の場合は、評価コメントをよく読み、それを踏まえてテキストを読み直して再学習しましょう。
4. 科目修了試験で不合格となった場合は、「リポート課題」の「ねらい」も参照としつつ、テキストを再読してください。

内容

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 教育社会学を学ぶ意義 | 8. スポーツ |
| 2. 幼児期 | 9. 進路選択 |
| 3. メディア | 10. 文理選択 |
| 4. 性的指向と性自認 | 11. 大学入試 |
| 5. カリキュラム | 12. 教員世界 |
| 6. 教材解釈 | 13. 養護教諭 |
| 7. 部活動 | 14. 教師文化 |
| | 15. これからの学校教育 |

テキスト・参考書

- ①テキスト 新版：教育社会とジェンダー 河野銀子・藤田由美子編著 学文社 2020（必ず第3刷以降を入手すること）
テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。
- ②参考書 教育社会学事典 日本教育社会学会編 丸善出版 2018 その他、テキストで紹介されている文献

成績評価

- ①リポート 「問い」「方法」「知見」の理解25%、理論や実践の理解と応用50%、論理性25%、の計100%で評価する。
- ②科目修了試験 主要概念の理解25%、事実に基づく理解や概念を応用した考察50%、論理性25%、の計100%で評価する。

教育社会学2 (テキスト)

担当教員：藤田 武志

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025 年度

概要

教育は、新しい世代を育成することを通して、未来の社会を形成する営みです。では、私たちの社会ではどのように子どもたちを育成し、どのような社会を作り上げているのでしょうか。教育社会学は、その問題を実証的・理論的に探究する学問です。この科目では、教育者社会的な見地から、社会におけるさまざまな教育の姿について学びます。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①教育に関する社会学理論について説明できる。
- ②社会における教育の役割について社会的に説明できる。

学習の進め方

1. テキスト・参考文献による学習： リポート課題を確認して学習する。
2. 『リポート課題集』を参照し、リポートを作成・提出する。『リポート課題集』にあるアドバイスにしたがうこと。
3. リポート不合格の場合は、評定コメントに基づきリポートを作成し、再提出する。リポート合格の場合は科目修了試験に向けてさらに深く学習する。
4. 科目修了試験不合格の場合は、テキストを改めて学習する。

内容

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 教育と社会の問い | 9. 高校多様化の可能性 |
| 2. 学校化社会 | 10. 入試と選抜 |
| 3. ライフコース | 11. 資格社会化と就職 |
| 4. 少子社会の家族と子ども | 12. インターネット社会と若者 |
| 5. 教育とジェンダー | 13. 少年犯罪の増減 |
| 6. 諸外国のカリキュラムと知識 | 14. 地域との連携と学校開放 |
| 7. メリトクラシーと学歴 | 15. 教師役割の変化と学校安全 |
| 8. 学力と意欲の階層差 | |

テキスト・参考書

①テキスト 教育の社会学 近藤博之・岩井八郎編著 放送大学教育振興会 2015、

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 よくわかる教育社会学 酒井朗他編 ミネルヴァ書房 2012

成績評価

- ①リポート 全体を100として、テキスト内容の理解度70%、論理構成の完成度30%で評価する。
- ②科目修了試験 全体を100として、テキスト内容の理解度60%、論理構成の完成度40%で評価する。

教育心理学1 (テキスト)

担当教員： 安藤 朗子・尾崎 啓子

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025 年度

概要

教育心理学の基本的知見を整理すると同時に、その背景にある心理学的なものの見方や考え方について4側面（①記憶や問題解決に注目する認知心理学や行動に注目する学習心理学と教育実践との関係、②学級内の人間関係や学習指導、教育評価についての教育心理学の視点、③知的発達や人格発達といった発達の問題、④教育場面で生じるトラブル解決の助けとなるカウンセリングの理論）を中心に学習する。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

教育の最終的な目標は、学習者が自己学習能力を身につけることを援助することであろう。したがって、援助を行うために不可欠な「障害のある児童・生徒を含む全ての児童・生徒、即ち学習者の発達可能性や発達段階」や「発達しつつある学習者の適性と教育との複雑な交互作用」について理解することを到達目標とする。

学習の進め方

1. 各自が興味を抱いた章、好きな章から読み始め、テキスト全体に目を通した後、「学習の手引」を参考にしながら、章ごとに縮約を行う。
2. リポート課題を確認し、テキストの関係する箇所を改めて学習し、参考文献を調べ、整合性等に留意してリポートを作成し、提出する。
3. リポート合格の場合は、科目修了試験に向け、自分の行った縮約をもとにテキストを再学習する。その際、テキストの各章におけるキーワードとなる語句(章ごとの「まとめ」を参考に)について、テキストの内容とともに、身近な事例をあげるなどしながら自分の言葉で説明できるようにする。リポート不合格の場合は改めてリポートに関係する箇所をテキストにより学習し、参考文献に当たった上でリポートを作成、提出する。
4. 科目修了試験不合格となった場合は、改めてテキストを学習し、次回の科目修了試験に備える。始めに作成した縮約にも目を通し、必要であれば再度縮約を作り直してみる。

内容

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1. 短期記憶、長期記憶、忘却 | 9. 児童・生徒をどう評価するか |
| 2. 学ぶこと、考えること | 10. 人間の発達 |
| 3. 条件づけによる学習 | 11. 知的発達のメカニズム |
| 4. 観察／自己強化による学習 | 12. 人格発達の基礎 |
| 5. 「やる気」を考える | 13. 発達障害 |
| 6. 内発的動機づけ | 14. カウンセリング(1)クライアント中心療法 |
| 7. 学級という社会 | 15. カウンセリング(2)行動療法、認知療法 |
| 8. どのように教えるか | |

テキスト・参考書

①テキスト やさしい教育心理学[第5版] 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 有斐閣 2019

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 テキストの各章末及び巻末に紹介されている文献

成績評価

①リポート 課題の理解60%、学生自身の学習成果30%、リポートとしての完成度10%として評価する。

②科目修了試験 知識 40%、理解 30%、記述力 30%として評価する。

その他

自分の学習活動と関連づけながら、体験的に学んでみましょう。

教育心理学2 (テキスト)

担当教員： 安藤 朗子・尾崎 啓子

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

教育心理学の基本的知見を整理すると同時に、その背景にある心理学的なものの見方や考え方について4側面（①記憶や問題解決に注目する認知心理学や行動に注目する学習心理学と教育実践との関係、②学級内の人間関係や学習指導、教育評価についての教育心理学の視点、③知的発達や人格発達といった発達の問題、④教育場面で生じるトラブル解決の助けとなるカウンセリングの理論）を中心に学習する。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

教育の最終的な目標は、学習者が自己学習能力を身につけることを援助することであろう。したがって、援助を行うために不可欠な「障害のある児童・生徒を含む全ての児童・生徒、即ち学習者の発達可能性や発達段階」や「発達しつつある学習者の適性と教育との複雑な交互作用」について理解することを到達目標とする。

学習の進め方

1. 各自が興味を抱いた章、好きな章から読み始め、テキスト全体に目を通した後、「学習の手引」を参考にしながら、章ごとに縮約を行う。
2. リポート課題を確認し、テキストの関係する箇所を改めて学習し、参考文献を調べ、整合性等に留意してリポートを作成し、提出する。
3. リポート合格の場合は、科目修了試験に向け、自分の行った縮約をもとにテキストを再学習する。その際、テキストの各章におけるキーワードとなる語句(章ごとの「まとめ」を参考に)について、テキストの内容とともに、身近な事例をあげるなどしながら自分の言葉で説明できるようにする。リポート不合格の場合は改めてリポートに関する箇所をテキストにより学習し、参考文献に当たった上でリポートを作成、提出する。
4. 科目修了試験不合格となった場合は、改めてテキストを学習し、次回の科目修了試験に備える。始めに作成した縮約にも目を通し、必要であれば再度縮約を作り直してみる。

内容

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1. 短期記憶、長期記憶、忘却 | 9. 児童・生徒をどう評価するか |
| 2. 学ぶこと、考えること | 10. 人間の発達 |
| 3. 条件づけによる学習 | 11. 知的発達のメカニズム |
| 4. 観察／自己強化による学習 | 12. 人格発達の基礎 |
| 5. 「やる気」を考える | 13. 発達障害 |
| 6. 内発的動機づけ | 14. カウンセリング(1)クライアント中心療法 |
| 7. 学級という社会 | 15. カウンセリング(2)行動療法、認知療法 |
| 8. どのように教えるか | |

テキスト・参考書

①テキスト やさしい教育心理学[第5版] 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 有斐閣2019

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 テキストの各章末および巻末に紹介されている文献

成績評価

①リポート 課題の理解60%、学生自身の学習成果30%、リポートとしての完成度10%として評価する。

②科目修了試験 知識 40%、理解 30%、記述力 30%として評価する。

その他

自分の学習活動と関連づけながら、体験的に学んでみましょう。

特別支援教育（幼）（テキスト）

担当教員：田中 謙・稲葉 豊

3年次～ 必修1単位

テキスト科目／2025年度

概要

保育所、児童発達支援センター、児童発達支援事業（所）、幼稚園、特別支援学校幼稚部、幼保連携型認定こども園等に在籍している障害をはじめとする特別な支援ニーズを有する乳幼児（児童期以降も一部含む）の生活、幼児教育・保育の質の向上を図るため、特別な支援ニーズやダイバーシティ・インクルージョン保育に関する知識及び支援方法への理解を深めることを目的とする。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①障害をはじめとする特別な支援ニーズを有する乳幼児、児童の発達及び特性について理解を深める
- ②障害をはじめとする特別な支援ニーズを有する乳幼児、児童への支援方法について理解を深める
- ③ダイバーシティ・インクルージョン保育について理解を深める
- ④特別なニーズに応じたダイバーシティ・インクルージョン保育の今後の展望と課題について理解を深める

学習の進め方

1. 各自が興味を抱いた章、好きな章から読み始め、テキスト全体に目を通した後、章ごとに縮約・論点（ポイント）整理を行う。
2. リポート課題を確認し、テキストの関係する箇所を改めて学習し、必ず参考文献を調べ、適宜参考・引用しながら整合性等に留意してリポートを作成し、提出する。
3. リポート合格の場合は、科目修了試験に向け、自分の行った縮約・論点（ポイント）整理をもとにテキストを再学習する。その際、テキストの各章におけるキーワードとなる語句（章ごとの「まとめ」を参考に）について、テキストの内容と共に、身近な事例を挙げるなどしながら、自分の言葉で説明できるようにする。リポート不合格の場合は改めてリポートに係る箇所をテキストにより学習し、参考文献に当たった上でリポートを作成、提出する。
4. 科目修了試験不合格となった場合は、改めてテキストを学習し、次回の科目修了試験に備える。始めに作成した縮約にも目を通し、必要であれば再度縮約・論点（ポイント）整理を作り直してみる。

内容

1. ダイバーシティ・インクルージョン社会・保育とは：SDGs・理念
2. 分離から統合へ、そして包括へ：歴史的な経緯
3. 「気になる子ども」をめぐる：ソーシャルワークの視点から
4. 保育者の困り感をめぐって：保育の見直し、展開
5. 園での職員間の協力、研修の充実：チームワーク、共通理解
6. 加配の充実：多面的な子ども理解と役割分担
7. 幼稚園における障害児、発達障害のある子どもの保育実践／保育所における障害児・発達障害のある子どもの保育実践
8. 肢体不自由・病弱・重度重複障害の子どもの保育：障害児保育園ヘレンを事例として
9. 視覚・聴覚障害のある子どもの教育・保育
10. 保護者支援：保護者の苦勞・たいへんさ／保護者支援の実際1／保護者支援の実際2
11. 包括的地域支援の展開
12. ライフステージに応じた支援
13. 療育の地域システム化：早期発見から療育へ、5歳児健診
14. 政策・制度と保育現場の発達障害児への対応課題
15. 幼児期の総合的な変革に向けて：特別なニーズに応じたダイバーシティ・インクルージョン保育の今後の展望と課題／総括

テキスト・参考書

①テキスト 小川英彦・田中謙編著（2022）『ダイバーシティ・インクルージョン保育』三学出版

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

- ②参考書 ①若月芳浩（2022）『「インクルーシブな保育」導入のススメ多様な子どもたちを受け入れるための心得―』中央法規出版。
- ②尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和編（2020）『よくわかるインクルーシブ保育』ミネルヴァ書房。
- ③久保山茂樹・小田豊編著（2018）『障害児保育―障害のある子どもから考える教育・保育―』光生館。

成績評価

①レポート 課題の理解 80%、レポートとしての完成度 20%として評価する。

②科目修了試験 知識 40%、理解 30%、記述力 30%として評価する。

特別支援教育（中高）（テキスト）

担当教員：田中 謙・稲葉 豊

3年次～ 必修1単位

テキスト科目／2025年度

概要

中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校等に在籍している障害をはじめとする特別な支援ニーズを有する生徒の生活、教育の質の向上を図るため、特別な支援ニーズやインクルーシブ教育、特別支援教育に関する知識及び支援方法への理解を深めることを目的とする。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①障害をはじめとする特別な支援ニーズを有する生徒の発達及び特性について理解を深める
- ②障害をはじめとする特別な支援ニーズを有する生徒への支援方法について理解を深める
- ③インクルーシブ教育、特別支援教育について理解を深める
- ④特別なニーズに応じたインクルーシブ教育、特別支援教育の今後の展望と課題について理解を深める

学習の進め方

1. 各自が興味を抱いた章、好きな章から読み始め、テキスト全体に目を通した後、章ごとに縮約・論点（ポイント）整理を行う。
2. リポート課題を確認し、テキストの関係する箇所を改めて学習し、必ず参考文献を調べ、適宜参考・引用しながら整合性等に留意してリポートを作成し、提出する。
3. リポート合格の場合は、科目修了試験に向け、自分の行った縮約・論点（ポイント）整理をもとにテキストを再学習する。その際、テキストの各章におけるキーワードとなる語句（章ごとの「まとめ」を参考に）について、テキストの内容と共に、身近な事例を挙げるなどしながら、自分の言葉で説明できるようにする。リポート不合格の場合は改めてリポートに係る箇所をテキストにより学習し、参考文献に当たった上でリポートを作成、提出する。
4. 科目修了試験不合格となった場合は、改めてテキストを学習し、次回の科目修了試験に備える。始めに作成した縮約にも目を通し、必要であれば再度縮約・論点（ポイント）整理を作り直してみる。
5. 高等学校における特別支援教育に関しては、2018（平成 30）年度から制度実施された「高等学校における通級による指導」（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/1400148.htm）に関しても学習すること。

内容

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 特別支援教育の理念と課題 | 9. 多様な支援を必要とする子どもたち：外国にルーツのある子どもなど（3-1・2・3・4） |
| 2. 障害種別の指導と支援①：知的障害・肢体不自由 | 10. 発達保障と学校・地域①：就学まで（4-1）／学齢期（4-2） |
| 3. 障害種別の指導と支援②：視覚障害・聴覚障害 | 11. 発達保障と学校・地域②：教室の子どもたち（4-3） |
| 4. 障害種別の指導と支援③：重症心身障害・病弱 | 12. 発達保障と学校・地域③：中学校卒業後の学び（4-4） |
| 5. 障害種別の指導と支援④：情緒障害・言語障害 | 13. 展望①：北欧の現状からスウェーデンのインクルーシブ教育の現状と課題（5-2）／日本のインクルーシブ教育の方向性—北欧・スウェーデンの現状から学ぶ（5-3） |
| 6. 障害種別の指導と支援⑤：自閉スペクトラム症（ASD） | 14. 展望②：障害者理解という視点から人間理解（5-5）／「特別支援学校設置基準」策定を求めた運動と今後の課題（5-6） |
| 7. 障害種別の指導と支援⑥：発達障害（AD/HD） | 15. 総括 |
| 8. 障害種別の指導と支援⑦：学習障害（LD）（局限性学習障害（SLD）） | |

テキスト・参考書

①テキスト 藤本文朗・小野川文子監 (2022) 『人権としての特別支援教育』

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

- ②参考書
- ①国立特別支援教育総合研究所 (2017) 『インクルーシブ教育システム構築に向けた地域における体制づくりのグランドデザインー文部科学省モデル事業等の実践を通じてー』 東洋館出版社.
 - ②半澤嘉博 (2019) 『中学校 学級担任のためのよくわかるインクルーシブ教育課題解決 Q&A』 開隆堂出版.
 - ③一木薫 (2021) 『特別支援教育のカリキュラム・マネジメントー段階ごとに構築する実践ガイドー』 慶応義塾大学出版会.

成績評価

①レポート 課題の理解 80%、レポートとしての完成度 20%として評価する。

②科目修了試験 知識 40%、理解 30%、記述力 30%として評価する。

教育課程論（小）（テキスト）

担当教員： 請川 滋大

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

本科目では、主に小学校教育を中心としながら「子どもに何を教え、何を学ばせるべきなのか」について学んで欲しいと願っている。教育課程とは学校におけるカリキュラムのことである。「教育課程論」では、「何を」「どうやって」教育するのかを、子どもの側の必要性和社会的必要性の側面から考えていきたい。教育課程を作ることの意義、教育内容の基準などについて基本的な部分から学んで欲しい。以下に学びのポイントについて記す。

- (1)教育課程の意義と歴史： なぜ教育課程が必要なのか／日本及び各国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか
- (2)教育課程編成の原理と方法： 教育課程編成の法的な根拠について／各学校段階における教育課程／総合的な学習における教育課程

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①教育課程の意味と、その学校における意義について説明することができる。
- ②教育課程の歴史的変遷について、基礎的な知識に基づき説明することができる。
- ③教育課程編成のポイントについて説明できる。

学習の進め方

以下の[内容]を参考に、この科目では教育課程の基礎と、小学校の教育課程についてしっかり学ぶこと。適宜『小学校学習指導要領』他、参考文献も活用するとよい。

内容

- | | |
|--|---|
| 1) 教育課程とは①（教育課程とカリキュラム） | 9) 新しい学習指導要領と各学校における教育課程②（その他学校の教育課程） |
| 2) 教育課程とは②（カリキュラムの構成原理、ヒドゥン・カリキュラム） | 10) 新しい学習指導要領と各学校における教育課程③（部活動と教育課程、インクルーシブ教育、多様な学びと教育課程） |
| 3) 教育課程に関する法規①（教育課程を規定する法体系） | 11) 総合的な学習の時間と教育課程①（目的、目指す資質・能力、カリキュラム・マネジメント） |
| 4) 教育課程に関する法規②（学習指導要領の法的拘束性） | 12) 教育課程と学習評価・学力テスト①（学習指導要領と学習評価） |
| 5) 教育課程の歴史①（戦前） | 13) 教育課程と学習評価・学力テスト②（学力テストをめぐる動向、ICTの活用） |
| 6) 教育課程の歴史②（戦後） | 14) 教育課程の評価と経営 |
| 7) 学習指導要領の変遷 | 15) 諸外国の教育課程 |
| 8) 新しい学習指導要領と各学校における教育課程①（小学校の教育課程、「外国語活動」と「英語」） | |

テキスト・参考書

- ①テキスト 新版 教育課程論のフロンティア、大津尚志・伊藤良高(編著) 晃洋書房 2018、学習の手引
小学校学習指導要領 文部科学省 東洋館出版社 2018

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

- ②参考書 平成29年版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理 東洋館出版社編集部 東洋館出版社 2017

成績評価

- ①レポート 課題の理解40%、自己学習の成果40%、レポートの体裁20%
②科目修了試験 論述形式。論理的思考力40%、基礎知識30%、記述力30%

その他

「学習の手引」を有効に活用すること。

教育課程論（中高）（テキスト）

担当教員： 請川 滋大

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

この科目は、中学校・高等学校における教育課程の基本的な知識について学び、現代の学校教育における課題について検討することを目的としている。学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解すると共に、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。中・高における学校教育を念頭に置きながら科目内容は展開されるが、それよりもさらに基本的な、日本の学校教育における問題点について思索を巡らせてもらいたい。「学校とは生徒に何を伝え、何を学ばせるところなのか」、この科目履修を機にしっかりと学習して欲しい。教育課程を作ることの意義、教育内容の基準などの基本的な部分についてしっかりと学ぶことを希望する。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①学校教育に於いて教育課程が有する役割・機能・意義を理解している。
- ②教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解している。
- ③教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解している。

学習の進め方

以下の[内容]を参考に、この科目では教育課程の基礎と、中学校・高等学校の教育課程についてしっかりと学ぶこと。

内容

- | | |
|---|---|
| 1) 教育課程とは①（教育課程とカリキュラム） | 10) 新しい学習指導要領と各学校における教育課程③（部活動と教育課程、インクルーシブ教育、多様な学びと教育課程） |
| 2) 教育課程とは②（カリキュラムの構成原理、ヒドゥン・カリキュラム） | 11) 総合的な学習の時間と教育課程①（目的、目指す資質・能力、カリキュラム・マネジメント） |
| 3) 教育課程に関する法規①（教育課程を規定する法体系） | 12) 教育課程と学習評価・学力テスト①（学習指導要領と学習評価） |
| 4) 教育課程に関する法規②（学習指導要領の法的拘束性） | 13) 教育課程と学習評価・学力テスト②（学力テストをめぐる動向、ICTの活用） |
| 5) 教育課程の歴史①（戦前） | 14) 教育課程の評価と経営 |
| 6) 教育課程の歴史②（戦後） | 15) 諸外国の教育課程 |
| 7) 学習指導要領の変遷 | |
| 8) 新しい学習指導要領と各学校における教育課程①（中学・高等学校の教育課程） | |
| 9) 新しい学習指導要領と各学校における教育課程②（その他の学校の教育課程、外国語活動と英語） | |

①テキスト 新版 教育課程論のフロンティア 大津尚志・伊藤良高(編著) 晃洋書房 2018、学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 ①中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 文部科学省 2017 東山書房
②高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 文部科学省 2018 東洋館出版社

成績評価

- ①レポート 課題の理解40%、自己学習の成果40%、レポートの体裁20%
②科目修了試験 論述形式。論理的思考力40%、基礎知識30%、記述力30%

その他

取得を希望している教科の学習指導要領やその解説書なども参考にし、自学自習を進めること。

道徳教育の研究（小）（テキスト）

担当教員： 松下 丈宏

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025 年度

概要

道徳教育の目標は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。本科目では主として、小学校における道徳教育および「特別の教科 道徳（以下、道徳科）」の具体的指導はどのように展開したらよいかについて、内容を深めていく。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①道徳教育の目標及び「道徳科」の目標について理解できる。
- ②わが国における戦前・戦後の道徳教育の歴史について理解できる。
- ③「道徳科」の指導内容について理解できる。
- ④「道徳科」における指導に当たっての配慮について理解できる。
- ⑤「道徳科」における評価について理解できる。

学習の進め方

- 1. テキストの章ごとに学習を進める。
- 2. リポートの課題を確認し、関係する箇所を改めてテキスト・参考文献等に基づいて学習する。
- 3. リポートの下書きを作成し、テキスト等との整合性を確認する。
- 4. 指定の用紙により提出用リポートを作成し、提出する。
- 5. リポート合格の場合は、科目修了試験に向けて、テキストの要点を簡潔に説明できるように分析的に学習するとともに、参考文献などを改めて読み直すことによって総合的な論述ができるような学習を進めること。
- 6. リポート不合格の場合は、最低限テキストを改めて分析的に学習する必要があることはいうまでもないことだが、参考文献等も参照することによって、道徳教育についての総合的な教養が身につくような学習をしたうえで、リポートを作成し提出すること。

内容

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 子どもたちを取り巻く社会の変化と道徳教育の課題 | 9. 道徳教育の目標 |
| 2. 道徳は教えることができるのか？－ソクラテスの問い | 10. 道徳教育の内容 |
| 3. 道徳とは何か(1) 功利主義 | 11. 道徳教育の全体計画と年間指導計画 |
| 4. 道徳とは何か(2) 義務論 | 12. 授業デザイン(1) 学習指導案の構成、発問構成等 |
| 5. 道徳性の発達とは何か(1) コールバーグの道徳性の発達理論 | 13. 授業デザイン(2) 補助資料の活用、ワークシートの工夫 |
| 6. 道徳性の発達とは何か(2) ギリガンのコールバーグ批判 | 14. 道徳教育における学習評価 |
| 7. わが国の道徳教育の歴史(1) 戦前の道徳教育 | 15. 授業研究 |
| 8. わが国の道徳教育の歴史(2) 戦後の道徳教育 | |

テキスト・参考書

- ①**テキスト** 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編 文部科学省 平成29年7月、学習の手引
- テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。**
- ②**参考書** ①新・教職課程シリーズ 道徳教育論〈改訂版〉 田中智志・橋本美保監修 松下良平編著 一藝社 2021
- ②道徳教育の可能性－徳は教えられるか(教育的思考の作法4) 小笠原道雄 福村出版 2012
- ③道徳教育はホントに道徳的か？－「生きづらさ」の背景を探る 松下良平 日本図書センター 2011

成績評価

①レポート 全体を 100 として、①課題の理解 ②「アドバイス」の活用 ③学習指導要領の理解 ④学習の成果 ⑤レポートの完成度を各 20%として評価する。

②科目修了試験 全体を 100 として、①課題の理解 ②基礎知識 ③学習指導要領の理解 ④考察力 ⑤教職への意欲・熱意を各 20%として評価する。

その他

教職への意欲・熱意をもって取り組んでほしい。

道徳教育の指導法（中）（テキスト）

担当教員： 松下 丈宏

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

道徳教育の目標は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。本科目では主として、中学校における道徳教育および「特別の教科 道徳(以下、道徳科)」の具体的な指導はどのように展開したらよいかについて、内容を深めていく。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①道徳教育の目標及び「道徳科」の目標
- ②わが国における戦前・戦後の道徳教育の歴史
- ③「道徳科」の指導内容
- ④「道徳科」における指導に当たっての配慮
- ⑤「道徳科」における評価

学習の進め方

1. テキストの章ごとに学習を進める。
2. リポートの課題を確認し、関係する箇所を改めてテキスト・参考文献等に基づいて学習する。
3. リポートの下書きを作成し、テキスト等との整合性を確認する。
4. 指定の用紙により提出用リポートを作成し、提出する。
5. リポート合格の場合は、科目修了試験に向けて、テキストの要点を簡潔に説明できるように分析的に学習するとともに、参考文献などを改めて読み直すことによって総合的な論述ができるような学習を進めること。
6. リポート不合格の場合は、最低限テキストを改めて分析的に学習する必要があることは言うまでもないことだが、参考文献等も参照することによって、道徳教育についての総合的な教養が身につくような学習をしたうえで、リポートを作成し提出すること。

内容

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1. 子どもたちを取り巻く社会の変化と道徳教育の課題 | 9. 道徳教育の目標 |
| 2. 道徳は教えることができるのか？－ソクラテスの問い | 10. 道徳教育の内容 |
| 3. 道徳とは何か(1) 功利主義 | 11. 道徳教育の全体計画と年間指導計画 |
| 4. 道徳とは何か(2) 義務論 | 12. 授業デザイン(1) 学習指導案の構成、発問構成等 |
| 5. 道徳性の発達とは何か(1) コールバーグの道徳性の発達理論 | 13. 授業デザイン(2) 補助資料の活用、ワークシートの工夫 |
| 6. 道徳性の発達とは何か(2) ギリガンのコールバーグ批判 | 14. 道徳教育における学習評価 |
| 7. わが国の道徳教育の歴史(1) 戦前の道徳教育 | 15. 授業研究 |
| 8. わが国の道徳教育の歴史(2) 戦後の道徳教育 | |

テキスト・参考書

①テキスト 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編 文部科学省 平成29年7月、学習の手引

テキスト一覧(『履修の手引』に掲載)を必ず参照のこと。

- ②参考書 ①新・教職課程シリーズ 道徳教育論(改訂版) 田中智志・橋本美保監修 松下良平編著 一藝社 2021
②道徳教育の可能性－徳は教えられるか(教育的思考の作法4) 小笠原道雄 福村出版 2012
③道徳教育はホントに道徳的か？－「生きづらさ」の背景を探る 松下良平 日本図書センター 2011

成績評価

①レポート 全体を 100 として、①課題の理解、②「アドバイス」の活用、③学習指導要領の理解、④学習の成果、⑤レポートの完成度を各 20%として評価する。

②科目修了試験 全体を 100 として、①課題の理解、②基礎知識、③学習指導要領の理解、④考察力、⑤教職への意欲・熱意を各 20%として評価する。

その他

教職への意欲・熱意をもって取り組んでほしい。

特別活動（小）（テキスト）

担当教員：西村 貴之

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025 年度

概要

子どもを取り巻く社会はめまぐるしく変化している。身の回りに生じる多様な生活課題から、わが国を含む世界的な課題解決のために、学習してきた知識や技能を活用させながら他者と協働し最適な解決方法を探りだす力が求められている。こうした力量形成において、教科外教育として教育課程上位置づけられている特別活動は重要である。本授業では学習指導要領解説にもとづいて、小学校の特別活動の教育的意義を理解し、具体的な授業実践を構想していけることをめざします。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1, 大学DP2, 大学DP3, 大学DP4, 大学DP5

到達目標

- ①特別活動の目標とその教育的意義を理解する。
- ②学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の内容と指導について理解する。
- ③特別活動の指導計画を作成できる。

学習の進め方

- 1. テキストの章ごとに学習を進める。
- 2. 章ごとあるいは複数の章の学習を終えたところで、各章に関わる事例を調べる（各活動・学校行事の具体的な実践記録を入手する）。
- 3. リポート課題を確認し、関係する箇所を改めてテキストなどにに基づき学習する。
- 4. リポートの下書きを作成する。
- 5. 下書きのリポートが課題に正対しているか確認し、必要に応じて加除訂正する。
- 6. 指定の用紙により提出用リポートを作成し、提出する。
- 7. リポート合格の場合は科目修了試験に向けてテキストなどにより学習する。リポート不合格の場合は改めてテキストを学習し、参考資料などに当たった上でリポートを作成し、提出する。
- 8. 科目修了試験に向けて学習する。
- 9. 科目修了試験不合格となった場合は改めて学習し、次回の科目修了試験に備える。科目修了試験終了直後に問題をどの程度解けたか確認し、難しかった箇所を改めて学習し、自分の不十分な点を克服することを推奨する。

内容

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1. 学習指導要領の特別活動改訂のポイントをつかむ | 9. クラブ活動の目標・内容を理解する |
| 2. 特別活動の目標（各活動・学校行事の目標含む）を理解する | 10. クラブ活動の実践記録を入手して分析する |
| 3. 特別活動の教育的意義を理解する | 11. 学校行事の目標・内容を理解する |
| 4. 特別活動の内容相互の関連・各教科等との関連を理解する | 12. 学校行事の実践記録を入手して分析する |
| 5. 学級活動の目標・内容を理解する | 13. 指導計画の作成に関する配慮について理解する |
| 6. 学級活動の実践記録を入手して分析する | 14. 指導計画を作成する |
| 7. 児童会活動の目標・内容を理解する | 15. 特別活動の評価方法について理解する |
| 8. 児童会活動の実践記録を入手して分析する | |

テキスト・参考書

①テキスト 小学校学習指導要領 解説 特別活動編 平成29年告示

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 詳しくは、「学習の手引」に紹介してあるが、その中でも下記の雑誌についてはぜひ手にしてほしい。
全国生活指導研究協議会編 機関誌「生活指導」

成績評価

- ①**レポート** 全体を 100 として、課題を理解しているか (40%)、具体的な実践記録を入手し考察を加えているか (40%)、レポートとしての完成度 20%として評価する。
- ②**科目修了試験** 論述形式の出題とし、知識 40%、理解 30%、考察力 30%の割合で評価する。

その他

テキストの内容を理解するために、まず学生諸君は「学習の手引」を一読してほしい（学習の進め方および試験対策についても詳しく解説している）。またレポート作成および試験対策のためには、特別活動の実践記録に多く触れておく必要がある。「学習の手引」に挙げた参考書を中心にテキストと合わせて、手にとって目を通してほしい（とりわけ実践記録は多読されたい）。また、小学校における特別活動は、「小 1 プロブレム」や「中 1 ギャップ」等学校生活の変化が生じる時期の児童への取り組みとしても重要である。その点を意識して学習に臨んでほしい。

なお、平成 29 年度版のテキストを使用する学生は、テキスト第 1 章の総説をよく読み、改訂のポイントを理解しておいてほしい。

特別活動・総合的な学習の時間の指導法（中高）（テキスト）

担当教員：松尾 廣文・西村 貴之

3 年次～ 必修 2 単位

テキスト科目／2025 年度

概要

子どもを取り巻く社会はめまぐるしく変化している。身の回りに生じる多様な生活課題から、わが国を含む世界的な課題解決のために、学習してきた知識や技能を活用させながら他者と協働し最適な解決方法を探りだす力が求められている。こうした力量形成において、教科外教育として教育課程上位置づけられている特別活動および教科等横断的なカリキュラムである総合的な学習の時間は重要である。本授業では学習指導要領解説にもとづいて、中学校・高等学校の特別活動および総合的な学習の時間の教育的意義を理解し、具体的な授業実践を構想していけることをめざします。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①特別活動の意義、目標及び内容が理解できる。
- ②特別活動の指導方法を理解し、実践が構想できる。
- ③総合的な学習の時間の意義や原理が理解できる。
- ④総合的な学習の時間の指導と評価について理解し、実践が構想できる。

学習の進め方

1. テキストの章ごとに学習を進める。
2. 章ごとあるいは複数の章の学習を終えたところで、各章の事例を調べる（具体的な実践記録を入手する）。
3. リポート課題を確認し、関係する箇所を改めてテキストなどにに基づき学習する。
4. リポートの下書きを作成する。
5. 下書きのリポートが課題に正対しているか確認し、必要に応じて加除訂正する。
6. 指定の用紙により提出用リポートを作成し、提出する。
7. リポート合格の場合は科目修了試験に向けてテキストなどにより学習する。リポート不合格の場合は改めてテキストを学習し、参考資料などに当たった上でリポートを作成し、提出する。
8. 科目修了試験に向けて学習する。
9. 科目修了試験不合格となった場合は改めて学習し、次回の科目修了試験に備える。科目修了試験終了直後に問題をどの程度解けたか確認し、難しかった箇所を改めて学習し、自分の不十分な点を克服することを推奨する。

内容

1. 学習指導要領の特別活動改訂のポイントをつかむ
2. 特別活動の目標（各活動・学校行事の目標含む）及び教育的意義を理解する
3. 学級（ホームルーム）活動の目標・内容を理解したうえで学級（ホームルーム）活動の実践記録を入手して分析する
4. 生徒会活動の目標・内容を理解したうえで生徒会活動の実践記録を入手して分析する
5. 学校行事の目標・内容を理解したうえで学校教示の実践記録を入手して分析する
6. 特別活動の内容相互の関連・各教科・総合的な学習の時間等・生徒指導との関連を理解したうえで、それらの実践記録を入手して分析する
7. 特別活動の指導計画の作成に関する配慮・指導方法・評価方法について理解したうえで、自分の実践を構想する
8. 学習指導要領の総合的な学習の時間における改訂のポイントをつかむ
9. 総合的な学習の時間の目標・趣旨をふまえたうえで各学校の目標・内容を定める際の考え方を理解する
10. 総合的な学習の時間の指導計画の作成の基本的な考え方について理解する
11. 探究的課題（現代的諸問題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題）、探究的課題の解決を通して目指す資質・能力について理解する

12. 総合的な学習の時間の学習指導（探究的学習）のポイントを理解する
13. これまでの優れた総合的な学習の時間の実践記録を入手し分析したうえで具体的な実践を構想する
14. 総合的な学習の時間の評価について理解する
15. 総合的な学習の時間を充実させる体制づくりについて理解する

テキスト・参考書

- ①テキスト 中学校学習指導要領 解説 特別活動編
高等学校学習指導要領 解説 特別活動編
中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間編
高等学校学習指導要領 解説 総合的な探求の時間編
学習の手引

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

- ②参考書 全国生活指導研究協議会編 機関誌「生活指導」 ※2012年4月号より高文研、それ以前は明治図書
全国高校生活指導研究協議会編 機関誌「高校生活指導」 ※2012年8月1日発行号より教育実務センター、それ以前は青木書店
平成29年度 中学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編 田村学編著 明治図書 2017

成績評価

- ①レポート 全体を100として、課題を理解しているか（40%）、具体的な実践記録を入手し考察を加えているか（40%）、レポートとしての完成度20%として評価する。
- ②科目修了試験 論述形式の出題とし、知識40%、理解30%、考察力30%の割合で評価する。

その他

レポート作成及び試験対策のためには、特別活動及び総合的な学習の時間の実践事例の一つでも多く触れておく必要がある。また、中学校と高等学校とでは特別活動及び総合的な学習の時間の指導内容にどのような違いがあるのか、特別活動と総合的な学習の時間は、教育課程全体でどのように関連づけられながら実践される必要があるのかなどを意識しながら学習を深めてほしい。

教育方法・技術1 (テキスト)

担当教員：楊 欣・前原 裕樹

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

わが国における学校教育の動向を踏まえながら、教育実践、特に授業づくりと授業改善の「理論・技法」としての教育方法を学ぶ。具体的には、教育方法学・授業論の見地から、授業・教材づくりの方法、授業研究の方法、授業研究を通じた教師としての成長、ICTを活用した授業デザインの方法、などについて学ぶ。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①教育方法学・授業論の見地から、授業の目標や教育内容の設定、教材の選定、授業内での学習活動やICT機器の使用方法について計画し、簡潔に説明することができる。
- ②教師の力量形成と授業研究との関係について、簡潔に説明することができる。

学習の進め方

テキストを熟読した後、参考書および各自で教育方法学・授業論に関する関連文献などもあたりながら、レポートを作成すること。

内容

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1. 教育の目的：これからの子どもたちに育みたい資質・能力 | 9. 深い学びを導く教材研究 |
| 2. 教師に求められる授業力量 | 10. 主体的・対話的な学習過程 |
| 3. 授業の構造 | 11. 学びが見える評価方法・真正な評価論 |
| 4. 教育評価 | 12. 授業の魅力・効果・効率を高めるICT |
| 5. 学習環境のデザイン | 13. 情報活用能力を育てる |
| 6. 授業を支える指導技術・教授行為 | 14. 授業研究の方法論と教師の力量形成 |
| 7. 学びを引き出す指導技術・学級づくりと学習形態 | 15. 授業研究と学校づくり |
| 8. 教育内容・学習目標の設定 | |

テキスト・参考書

①テキスト

『授業づくりの深め方：「よい授業」をデザインするための5つのツボ』石井 英真 2020 ミネルヴァ書房
『教育の方法と技術 Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣忠他 2022 北大路書房

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書

『よくわかる授業論』田中耕治 2007 ミネルヴァ書房
『教育方法学』佐藤学 1996 岩波書店

成績評価

①レポート 全体を100として、課題の理解30%、テキスト以外の文献の参照30%、全体の完成度40%として評価する。

②科目修了試験 第1問70点、第2問30点（10点×3小問）と配分し、第1問では課題の把握・内容理解力と論理・構成員力、第2問では知識・理解力をそれぞれ確認する。

教育方法・技術2(情報通信技術の活用含む)(テキスト)

担当教員： 楊 欣・前原 裕樹

2年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

わが国における学校教育の動向を踏まえながら、教育実践、特に授業づくりと授業改善の「理論・技法」としての教育方法を学ぶ。また、ICT を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。教育方法学・授業論の見地から、授業・教材づくりの方法、授業研究の方法、授業研究を通じた教師としての成長、ICT を活用した授業デザインの方法、校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法などについて学ぶ。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①教育方法学・授業論の見地から、授業の目標や教育内容の設定、教材の選定、授業内での学習活動や ICT 機器の使用方法について計画し、簡潔に説明することができる。
- ②教師の力量形成と授業研究との関係について、簡潔に説明することができる。
- ③校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

学習の進め方

テキストを熟読した後、参考書および各自で教育方法学・授業論に関する関連文献などもあたりながら、レポートを作成すること。

内容

1. 学校教育及び授業の目的：これからの子どもたちに育みたい資質・能力と教師に求められる授業力量
2. 現代社会における ICT の役割
具体的内容：現代社会における ICT の役割を学ぶ。
3. 授業における ICT 活用の意義と課題
教育における視聴覚メディアの歴史的展開を説明し、情報通信技術の活用の意義と課題について理解を深める。
4. 教師の ICT 活用指導力及び先端技術の活用の教育実践
具体的内容：学習場面に応じた情報通信技術を効果的に活用した指導事例から、基礎的な指導方法を学ぶ。また、ICT 支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方や学校における ICT 環境の整備の在り方について説明する。
5. 授業の構造、教育評価
6. 授業を支える指導技術・教授行為
7. 学びを引き出す指導技術・学級づくりと学習形態
8. 教育内容・学習目標の設定
9. 深い学びを導く教材研究
10. 対話的深い学びを深める ICT の活用
具体的内容：対話的深い学びとは何か、またそれを実現する ICT の活用の方法について、具体的な事例を通して説明する。
11. 個別最適な学び及び特別支援教育における ICT 活用の実践
具体的内容：学習履歴など教育データを活用して指導や学習評価に活用する意義及び特別の支援を必要とする児童生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用について、具体的な事例を通して説明する。
12. 授業の魅力・効果・効率を高める ICT
具体的内容：遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用方法について説明する。
13. 探究的な学びを支える情報活用能力及び情報モラル・情報セキュリティを育む教育実践
具体的内容：各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において、横断的に育成する情報活用能力及び情報活用能力に含まれる情報モラル・情報セキュリティの重要性について説明する。その上で、具体的な事例から児童生徒の情報活用

能力などを育む教育実践について考察する。

1 4. 授業研究の方法論と教師の力量形成

1 5. これからの学校づくりと校務の情報化・データの活用方法

具体的内容：総合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について説明する上で、これからの学校づくりに関する具体的な事例を示し、理解を深める。

テキスト・参考書

①テキスト

『授業づくりの深め方:「よい授業」をデザインするための5つのツボ』石井 英真 2020 ミネルヴァ書房

『教育の方法と技術 Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣忠他 2022 北大路書房

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書

『よくわかる授業論』田中耕治 2007 ミネルヴァ書房

『教育方法学』佐藤学 1996 岩波書店

成績評価

①レポート 全体を100として、課題の理解30%、テキスト以外の文献の参照30%、全体の完成度40%として評価する。

②科目修了試験 第1問70点、第2問30点（10点×3小問）と配分し、第1問では課題の把握・内容理解力と論理・構成力、第2問では知識・理解力をそれぞれ確認する。

児童相談心理学（テキスト）

担当教員： 三林 真弓

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

児童は、家庭や学校、地域社会など児童を取り巻く環境に大きく影響され、発達途上において、種々の問題行動や心理的な不適応を起こすことがある。児童相談心理学は、そうした児童の問題行動や心理的な不適応の状態を、より適応的な状態に向け、問題行動や心理的な不適応を予防するために教育相談を主な手法とする生徒指導を通して、適切な対応を学ぶ教科である。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①児童の発達段階における心理や行動の特徴を理解する。
- ②児童を援助する方法としての教育相談の目的や内容、技法について理解する。

学習の進め方

1. テキストの章ごとに学習を進める。
2. 章ごと、あるいは複数の章の学習を終えたところで、各章の参考文献を調べる。（図書館を利用したり、書店で文献の一部を購入する）
3. リポートの課題について、テキストや参考文献に基づき学習する。
4. リポートの下書きを作成し、テキストや参考文献との整合性等を確認する
5. 指定の用紙により、提出用リポートを作成し提出する。
6. リポート合格の場合は、科目修了試験に向けて、テキストや参考文献に基づき学習する。リポート不合格の場合は、改めてテキストや参考文献に当たったうえでリポートを作成し、提出する。
7. 科目修了試験に不合格となった場合は、改めて学習し、次回の科目修了試験に備える。科目修了試験直後に問題を解けた箇所と解けなかった箇所を確認し、解けなかった場所については、改めて学習する。

内容

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1. 第1章 学校における教育相談の意義と役割 | 9. 第9章 性に関する問題の理解と対応 |
| 2. 第2章 教師に望まれるカウンセリングマインド | 10. 第10章 障害児の理解と援助 |
| 3. 第3章 パーソナリティとその理解 | 11. 第11章 生徒の進路についての指導と援助 |
| 4. 第4章 心理検査とその利用 | 12. 第12章 保健室の養護教諭の役割 |
| 5. 第5章 カウンセリングの技法 | 13. 第13章 スクールカウンセラーの役割 |
| 6. 第6章 不登校の理解と対応 | 14. 第14章 教育相談関係機関とその利用 |
| 7. 第7章 いじめの理解と対応 | 15. 「付録(トピックス、疾患、統計資料)」部分に基づく学習 |
| 8. 第8章 非行の理解と対応 | |

テキスト・参考書

①テキスト 学校教育相談心理学 中山巖 北大路書房 2001年

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書

- ①学校カウンセリング 氏原寛ほか ミネルヴァ書房 1991年
- ②実践に役立つ臨床心理学第4版 塩崎尚美編著 北樹出版 2022年
- ③カウンセリング初歩 氏原寛ほか ミネルヴァ書房 1992年
- ④子どものパーソナリティと社会性の発達 堀野緑ほか 北大路書房 2000年
- ⑤カウンセリングを学ぶ新版 水島恵ほか 有斐閣 1987年

成績評価

①リポート リポート：全体を 100 として、課題理解 70%、「ねらい」「アドバイス」の活用 10%、学生自身の学習成果 10%、リポートの完成度 10%として評価する。

②科目修了試験 第1問、第2問とも 50 点と配分し、以下の評価基準により評価する(知識 50%、論理性 50%)。

その他

カウンセリングや心理学に関する事項については、文献によっては記述内容を理解するのが難しいこともあると思われるため、複数の文献にあたることを望ましい。

生徒指導・進路指導（夏期スクーリング）

担当教員： 小林 晃

3年次～ 必修2単位

スクーリング科目／2025年度

概要

生徒指導は、児童生徒の人格の健全な発達を図るため、教科、特別の教科道徳及び特別活動等の教育課程内に留まることなく、学校の教育活動全体を通じて行われる重要な機能です。本講義では、生徒指導の基礎的な理解とその指導法を学びます。さらに、いじめや不登校など具体的な課題を取り上げ、その対応方法を学ぶ中で、生徒指導の実践的指導法を習得します。また、進路指導・キャリア教育の意義と役割について理解を深めるとともに、指導法について学びます。

授業の方法

【面接】

講義形式を基本としつつ、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れます。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①生徒指導の意義と役割、指導法に関する基礎的知識を身に付ける。
- ②いじめや不登校など生徒指導上の個別の課題について理解を深め、その対応方法を理解する。
- ③進路指導・キャリア教育の意義と役割、指導法を理解する。

授業計画

講義形式を基本としつつ、グループディスカッション等を取り入れ、学生が主体的に授業に参加し、双方向型対話型形式による授業を展開する。

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. ガイダンスー生徒指導の意義と役割 | 9. 児童虐待と学校・教職員の役割 |
| 2. 生徒指導と児童生徒理解 | 10. 不登校問題 |
| 3. 集団指導と個別指導 | 11. インターネット、携帯電話に関わる問題 |
| 4. チーム学校による生徒指導体制 | 12. 性に関する課題 |
| 5. 生徒指導と危機管理 | 13. 進路指導・キャリア教育の意義と役割 |
| 6. 校則 | 14. 進路指導・キャリア教育の指導法 |
| 7. 懲戒と体罰、不適切な指導 | 15. 総括ー生徒指導、進路指導・キャリア教育の課題ー |
| 8. いじめ問題 | |

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

積極的に授業に参加できるよう、学生各自の判断により何らかの準備学習をしてくること。

②使用教科書 新訂版 生徒指導・進路指導論 黒川雅子・山田知代・坂田仰 教育開発研究所 2024

③参考書 生徒指導提要(改訂版) 文部科学省 2022.12

④持参するもの 教科書、ノート、筆記用具

⑤成績評価 スクーリング最終日の試験 50%、授業中に指示する課題 50%

⑥追試験 対象科目

学校カウンセリング基礎論1 (テキスト)

担当教員： 稲垣 綾子

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025年度

概要

子どもや子どもを取り巻く環境が多様化するなかで、教諭が幼稚園教育の場において教育相談（カウンセリング）の知識と技法を学び、教育活動に生かすことが求められている。

授業では、子どもの発達特徴に即しながら、個々の心理的特質や教育的課題を把握し、必要な教育相談（カウンセリング）の意義や理論、技法の基礎を学ぶ。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①教育相談（カウンセリング）の意義が説明できる。
- ②代表的なカウンセリングの理論と技法が説明できる。
- ③幼児期の子どもの発達の特徴とそれに応じた基本的対応の仕方が理解できる。
- ④教育場面で生じる諸問題が説明できる。

学習の進め方

使用するテキストは基礎的なカウンセリングによる心理支援の理論や技法が平易に述べられている。カウンセリング理論は國分康孝（著）『カウンセリングの理論』、学校教育相談（学校カウンセリング）の一般的概念はダリル・ヤギ（1998）『スクールカウンセリング入門』勁草書房、教育相談やその近接関連活動は仙崎武ほか（編著）（2006）『生徒指導・教育相談・進路指導』田研出版、子どもに関する教育上の諸問題は小泉令三（編著）（2006）『子どものための適応援助』北大路書房、子どもの発達と相談援助については大川一郎ほか（編）『生涯発達の中のカウンセリングⅠ、Ⅱ』、子どもの発達臨床上の諸問題については高塚雄介ほか（編著）『臨床心理学』でコンパクトにまとめられている。

レポート合格後、教育関連の問題について常に関心に向け、教育相談（カウンセリング）による子どもの理解や支援の基本的考え方や技法について関連図書に目を通しておくこと。

内容

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1. 教育相談（カウンセリング）とは何か | 9. 生涯発達の中のカウンセリング |
| 2. 教育相談（カウンセリング）の歴史と意義 | 10. 障害のある子どもの理解と支援（知的障害、発達障害など） |
| 3. 進路相談におけるカウンセリング | 11. 子どもの発達上の問題行動（アタッチメントの問題など） |
| 4. 教育相談（カウンセリング）における心理アセスメント | 12. 集団行動における子どもの問題行動（いじめ、非行など） |
| 5. クライアント中心療法的カウンセリングの基礎 | 13. 虐待の発見と関係機関との連携 |
| 6. 精神分析的カウンセリングの基礎 | 14. 保護者との面接 |
| 7. 行動療法的カウンセリングの基礎 | 15. 担任による教育相談と組織的取り組み |
| 8. 乳幼児期の子どもの発達 | |

テキスト・参考書

①テキスト 新・カウンセリングの話 平木典子 朝日新聞社 2020

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 カウンセリングの理論 國分康孝 誠信書房 1980
スクールカウンセリング入門 ダリル・ヤギ 勁草書房 1998
生徒指導・教育相談・進路指導 仙崎武ほか編著 田研出版 2006
子どものための適応援助 小泉令三編著 北大路書房 2006
生涯発達の中のカウンセリングⅠ、Ⅱ 大川一郎ほか編 サイエンス社 2015
臨床心理学 高塚雄介編著 医学出版社 2009
家族療法テキストブック 日本家族研究・家族療法学会編著 金剛出版 2013

母と子とのアタッチメント ボウルビィ 医歯薬出版 1993
幼稚園教育要領
小学校学習指導要領

成績評価

- ①レポート 課題で求められていることの理解 40%、学生の学習成果 30%、完成度 30%として評価する。
②科目修了試験 論述形式を採用する。知識 40%、理解 30%、論理性 30%

その他

まず課題で何が求められているかを的確に理解してください。

学校カウンセリング基礎論2（テキスト）

担当教員： 稲垣 綾子

3年次～ 必修2単位

テキスト科目／2025 年度

概要

子どもや子どもを取り巻く環境が多様化するなかで、教師が中学校や高等学校の場において教育相談（カウンセリング）の知識と技法を学び、教育活動に生かすことが求められている。

授業では、子どもの発達的特徴に即しながら、個々の心理的特質や教育的課題を把握し、支援するために必要な教育相談（カウンセリング）の意義や理論や技法の基礎知識を学ぶ。

授業の方法

【印刷教材等】

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①教育相談（カウンセリング）の意義が説明できる
- ②代表的なカウンセリングの理論と技法が説明できる
- ③子どもの発達的特徴に応じた基本的対応の仕方が理解できる
- ④教育場面で生じる諸問題が説明できる

学習の進め方

使用するテキストは基礎的なカウンセリングによる心理支援の理論や技法が平易に述べられている。カウンセリング理論は国分康孝（1980）『カウンセリングの理論』、学校教育相談（学校カウンセリング）はダリル・ヤギ（1998）『スクールカウンセリング入門』勁草書房、教育相談やその近接関連活動は仙崎武ほか（編著）（2006）『生徒指導・教育相談・進路指導』田研出版、子どもに関する教育上の諸問題（不登校、いじめ、発達障害など）は小泉令三（編著）（2006）『子どものための適応障害』北大路書房が参考になる。家族の理解や家族支援については日本家族研究・家族療法学会（編著）（2013）『家族療法テキストブック』、非行や犯罪については日本犯罪心理学会（編）（2016）『犯罪心理学事典』で幅広い解説がなされている。

レポート合格後、教育関連の問題について常に関心に向け、教育相談（カウンセリング）による子どもの理解や支援の基本的考え方や技法について関連図書に目を通しておくこと。

内容

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 教育相談（カウンセリング）とは何か | 8. 教育相談（カウンセリング）における心理アセスメント |
| 2. 教育相談（カウンセリング）の歴史と意義 | 9. 進路相談におけるカウンセリングの活用 |
| 3. 代表的なカウンセリングにおける人間観 | 10. 担任教師の行う教育相談と組織的取り組み |
| 4. クライエント中心療法的カウンセリングとカウンセラーの基本的態度 | 11. 不登校の理解と基本的対応 |
| 5. クライエント中心療法の理論 | 12. 中学校・高等学校におけるいじめの理解と対応 |
| 6. 精神分析的カウンセリングの基礎理論 | 13. 学校における虐待の発見と関係機関との連携 |
| 7. 行動療法的カウンセリングの基礎理論 | 14. 子どもの問題行動と関係機関との連携（非行や犯罪など） |
| | 15. 保護者や家族との面接と対応 |

テキスト・参考書

①テキスト 新・カウンセリングの話 平木典子 朝日新聞社 2020

テキスト一覧（『履修の手引』に掲載）を必ず参照のこと。

②参考書 カウンセリングの理論 国分康孝 誠信書房 1980

スクールカウンセリング入門 ダリル・ヤギ 勁草書房 1998

生徒指導・教育相談・進路指導 仙崎武ほか編著 田研出版 2006

子どものための適応援助 小泉令三編著 北大路書房 2006

学校心理学 石隈利紀 誠信書房 1999

家族療法テキストブック 日本家族研究・家族療法学会編著 金剛出版 2013

犯罪心理学事典 日本犯罪心理学会編 丸善出版 2016

中学校学習指導要領

高等学校学習指導要領

成績評価

①レポート 課題で求められていることの理解 40%、学生の学習成果 30%、完成度 30%として評価する。

②科目修了試験 論述形式を採用する。知識 40%、理解 30%、論理性 30%

その他

まず課題で何が求められているかを的確に理解してください。

教育実習（幼）（スクーリング）

担当教員：糸原 淳子・小川 賀子

4年次～ 必修5単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱを踏まえ、実習園における教育実習を通して、幼稚園の現状や教員の職務を理解し、園児への対応等、教職の基礎・基本を学ぶ。

授業の方法

【面接】

教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱを受け、実習園(幼稚園)における教育実習実施計画に基づいた教育活動を行い、事後指導及び実践演習を通して、成果と課題を把握する。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

自己の課題を明確にもち、課題解決のための方策を考えたり学んだりすることを通して、教員としての資質の向上を図る。

授業計画

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 教育実習 教育実習日誌の作成・実習園の概要把握 | 16. 教育実習 部分実習の指導案作成と実施・反省 教材作り |
| 2. 教育実習 教育実習への自覚・確認 | 17. 教育実習 部分実習の指導案作成と実施・反省 教材作り |
| 3. 教育実習 実習園の園長の講話を聴き、園の様子を知る | 18. 教育実習 部分実習の指導案作成と実施・反省 教材作り |
| 4. 教育実習 園務全般の説明を受ける | 19. 教育実習 部分実習の指導案作成と実施・反省 教材作り |
| 5. 教育実習 服務についての話を聞く | 20. 教育実習 責任実習の準備をする・指導案作成 |
| 6. 教育実習 担当学年の幼児理解・保育内容の理解 | 21. 教育実習 責任実習の準備をする・教材作成 |
| 7. 教育実習 担当学級の幼児理解・保育内容の理解 | 22. 教育実習 責任実習の指導案を完成する |
| 8. 教育実習 保育参観(観察)及び学級活動への参加 | 23. 教育実習 責任実習の実施 |
| 9. 教育実習 教育実習日誌の書き方の指導を受ける | 24. 教育実習 責任実習の反省(課題の明確化) |
| 10. 教育実習 保育参観・学級活動の記録・反省 教材作り | 25. 教育実習 教育実習の振り返り(幼児理解について) |
| 11. 教育実習 保育参観・学級活動の記録・反省 教材作り | 26. 教育実習 教育実習の振り返り(保育内容について) |
| 12. 教育実習 保育参観・学級活動の記録・反省 教材作り | 27. 教育実習 教育実習の振り返り(求められる資質・能力) |
| 13. 教育実習 保育参観・学級活動の記録・反省 教材作り | 28. 教育実習 教育実習の体験の自己評価 |
| 14. 教育実習 次週の計画及び保育参観・学級活動 | 29. 教育実習 教育実習の成果と課題をレポートにまとめる |
| 15. 教育実習 指導計画案の検討及び保育参観・学級活動 | 30. 教育実習 園長・指導教諭からコメントを頂く |

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

教育実習日誌や履修カルテを用い、自らの学びを振り返り、課題を見出しておくこと。4時間程度。

②使用教科書 幼稚園教育要領解説

③参考書 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開 文部科学省 チャイルド本社 2021 年

④持参するもの 教育実習日誌、履修カルテ

⑤成績評価 授業への参加貢献度、提出された指導案、最終日のレポート、実習園の評価などから総合的に評価していく。

⑥学生へのメッセージ 幼稚園教諭を目指す学生として、学びの集大成とすべく、自己を見つめ資質の向上に努めましょう。

教育実習（小）（スクーリング）

担当教員： 桑原 淳子・山口 博子

4 年次～ 必修5 単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱを踏まえて、実習校における教育実習を通して、学校の現状や教員の職務を理解して、児童への対応等、教職の基礎・基本を学ぶ。

授業の方法

【面接】

教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱを受け、実習校(小学校)における教育実習実施計画に基づいた教育活動を行い、事後指導及び実践演習を通して、成果と課題を把握する。

学位授与方針との関係

大学DP1, 大学DP2, 大学DP3, 大学DP4, 大学DP5

到達目標

- ① 教育に関する理解を深め、教師としての仕事や役割、責任の重要性を確認する。
- ② 児童一人一人に対して、誠意をもって接し、理解する。
- ③ 実習を通して学んだことや課題を次の実践に生かせるように自己研鑽に努める。

授業計画

1. 教育実習	教育実習手帳の作成・実習校の概要把握	16. 教育実習	授業実践と反省・教材づくり
2. 教育実習	実習校の校長の講話を聴き、経営方針を知る	17. 教育実習	授業実践と反省・教材づくり
3. 教育実習	担当学年の児童理解・学習内容の理解	18. 教育実習	授業実践と反省・教材づくり
4. 教育実習	校務や服務についての話を聞く	19. 教育実習	授業実践と反省・教材づくり
5. 教育実習	生活指導や道徳指導についての話を聞く	20. 教育実習	研究授業の準備をする・指導案作成
6. 教育実習	学習指導の観察及び学級活動への参加	21. 教育実習	研究授業の準備をする・教材作成
7. 教育実習	学習指導の観察及び学級活動への参加	22. 教育実習	研究授業の準備をする・資料作成
8. 教育実習	授業観察及び週ごとの指導計画作成	23. 教育実習	研究授業の指導案を完成する
9. 教育実習	授業観察及び週ごとの指導計画作成	24. 教育実習	研究授業の実施
10. 教育実習	授業観察及び週ごとの指導計画作成	25. 教育実習	研究授業の反省(課題の明確化)
11. 教育実習	学級活動への参加及び学習指導案の検討	26. 教育実習	研究授業の事後指導を受けて改善指導案作成
12. 教育実習	学級活動への参加及び学習指導案の検討	27. 教育実習	教育実習の振り返り(学習指導)
13. 教育実習	学級活動への参加及び学習指導案の検討	28. 教育実習	教育実習の振り返り(生活指導)
14. 教育実習	授業に部分的に参加し、学習指導をする	29. 教育実習	教育実習体験の自己評価
15. 教育実習	授業に部分的に参加し、学習指導をする	30. 教育実習	教育実習の成果と課題をレポートにまとめる

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

学習指導要領及び解説の熟読	10 時間程度
学習指導に関する教材研究	6 時間程度
生活指導・道徳指導に関すること	4 時間程度
児童理解・特別支援に関すること	4 時間程度

②使用教科書 学習指導要領及び解説 該当学年の教科書 等

③参考書 特になし

④持参するもの 教育実習手帖、履修カルテ

⑤成績評価 「教育実習事前指導Ⅰ（講義・面接・聴講）」、「教育実習事前指導Ⅱ」、実習校での実習、実習校からの評価、事後指導のすべてを総合的に判断して、評価します。

なお、教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱ、教育実習が不合格となった場合、本学で再度教育実習を受講することはできません。

⑥学生へのメッセージ 教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱで学んだことを生かし、児童理解・学習指導・生活指導等に努めること

教育実習（中高）（スクーリング）保健・家庭

担当教員：松尾 廣文・天野 晴子・浅野 雅子
浅見 美穂・大塚 美香・鎌田 浩子

4年次～ 必修5単位

スクーリング科目／2025年度

概要

本科目は教職に関する教育実習（実習校）である。教育の現場（実習校）において、実際に教育活動を経験する中で、教師として必要なことを学ぶ。

授業の方法

【面接】

実習先のクラスにおいて学級経営を行い、特別活動等にも参加する。
教科等の授業観察及び授業実践、研究授業を行い、自分の実践を省察する。
指導教諭から指導・助言を受け、教科活動の内容を高める努力をする。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

教師としての自覚と責任感を持ち、物事に対処し主体的に学級経営や学習指導を実習校での体験をととして自分の価値を高める。
現場では、自己の課題を明確にもち、その方策を考え、学びを通し教師としての資質の向上を図る。
自分の能力や態度、技術を振り返り、今後の自己研鑽の在り方を理解している。

授業計画

1. 教育実習事前指導 充実した教育実習のために実習日誌の作成について指導を受ける。
 2. 教育実習事前指導 充実した教育実習のために教育実習への自覚を深める。
 3. 教育実習（1週目）実習校校長から講話を聴き、教務部主任から校務全般の説明を受けて、校内の様子を知る。
 4. 教育実習（1週目）生徒指導、教科指導についての講話を聴く。
 5. 教育実習（1週目）学習指導の観察、学級活動に参加する。
 6. 教育実習（1週目）次週の計画及び学習指導案の検討を行う。
 7. ～10. 教育実習（1週目）授業観察
 11. ～14. 教育実習（2週目）計画的に授業実践（学習活動）を行う。
 12. 教育実習（2週目）授業実践と反省（1） 13. 教育実習（2週目）授業実践と反省（2）
 14. 教育実習（2週目）授業実践と反省（3） 14. 教育実習（2週目）授業実践と反省（4）
 15. ～20. 教育実習（2週目）研究授業の準備を行う。
 21. ～24. 教育実習（3週目）研究授業を実施する。
 25. 教育実習（3週目）研究授業の反省を行う。 26. ～29. 教育実習事後指導の反省し、残りの授業実践に生かす。
 30. 教育実習の体験を自己評価し、成果をレポートにまとめる。実習手帳のまとめ、校長、指導教諭からコメントを書いて頂く。
- ※教育実習5単位には、事前事後指導を含む。上記の実習計画は、実習校により異なる。

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

教育実習の参加には、厳しい条件を設けられているため、「履修の手引」「教育実習の手引き」「教職課程」の資料等を熟読し、有意義な教育実習が行えるよう十分に事前準備を行う。（5時間程度）

②使用教科書 実習校で使用している当該校種・教科の教科書

③参考書 法令（教育基本法、学校教育法）、学習指導要領及び学習指導要領解説「教育実習の手引き」

④持参するもの 実習校で指定されたもの

⑤成績評価 事前事後指導の評価、教育実習日誌の記録、教育実習への意欲的態度（指導教諭の観察指導）、実習校の教育実習評価の結果等により総合的に評価する。

⑥学生へのメッセージ

学生の状況等により内容が前後することがあります。

教育実習（高）（スクーリング） 保健・家庭

担当教員：松尾 廣文・天野 晴子・浅野 雅子
浅見 美穂・大塚 美香・鎌田 浩子

4 年次～ 必修 3 単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

本科目は教職に関する教育実習（実習校）である。教育の現場（実習校）において、実際に教育活動を経験する中で、教師として必要なことを学ぶ。

授業の方法

【面接】

実習先のクラスにおいて学級経営を行い、特別活動等にも参加する。

教科等の授業観察及び授業実践、研究授業を行い、自分の実践を省察する。

指導教諭から指導・助言を受け、教科活動の内容を高める努力をする。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

教師としての自覚と責任感を持ち、物事に対処し主体的に学級経営や学習指導を実習校での体験をととして自分の価値を高める。

現場では、自己の課題を明確にもち、その方策を考え、学びを通し教師としての資質の向上を図る。

自分の能力や態度、技術を振り返り、今後の自己研鑽の在り方を理解している。

授業計画

1. 教育実習事前指導 充実した教育実習のために実習日誌の作成について指導を受ける。
2. 教育実習事前指導 充実した教育実習のために教育実習への自覚を深める。
3. 教育実習（1 週目）実習校校長から講話を聴き、教務部主任から校務全般の説明を受けて、校内の様子を知る。
4. 教育実習（1 週目）生徒指導、教科指導についての講話を聴く。
5. 教育実習（1 週目）学習指導の観察、学級活動に参加する。
6. 教育実習（1 週目）次週の計画及び学習指導案の検討を行う。
7. 教育実習（1 週目）授業観察
8. 教育実習（1 週目）計画的に授業実践（学習活動）を行う。
9. 教育実習（2 週目）授業実践と反省（1）
10. 教育実習（2 週目）授業実践と反省（2）
11. 教育実習（2 週目）授業実践と反省（3）
12. 教育実習（2 週目）研究授業の準備を行う。
13. 教育実習（2 週目）研究授業を実施する。
14. 教育実習（2 週目）研究授業の反省を行う。
15. 教育実習事後指導の反省をし、教育実習の体験を自己評価し、成果をレポートにまとめる。実習手帳のまとめ、校長、指導教諭からコメントを書いて頂く。

※教育実習 3 単位には、事前事後指導を含む。上記の実習計画は、実習校により異なる。

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

教育実習の参加には、厳しい条件を設けられているため、「履修の手引」「教育実習の手引き」「教職課程」の資料等を熟読し、有意義な教育実習が行えるよう十分に事前準備を行う。（5 時間程度）

②使用教科書 実習校で使用している当該校種・教科の教科書

③参考書法令（教育基本法、学校教育法）、学習指導要領及び学習指導要領解説「教育実習の手引き」

④持参するもの 実習校で指定されたもの

⑤成績評価

事前事後指導の評価、教育実習日誌の記録、教育実習への意欲的態度（指導教諭の観察指導）、実習校の教育実習評価の結果等により総合的に評価する。

⑥学生へのメッセージ

学生の状況等により内容が前後することがあります。

教育実習事前指導Ⅱ（幼）（夏期スクーリング）

担当教員：小川 賀子

3 年次～ 必修無単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

教育は、子どもたちの人間としての望ましい成長・発達に適切にかかわる営みであり、社会の将来をも左右する。その直接の担い手である教員は専門的知識を要する職業であり、この職責の重さを自覚して日々その任に当たっている。そこで、教職を目指す学生は、教育実習を通して、子どもたちと向き合い、教師としての適性、資質・能力を見極めること、実習後の課題を明らかにすることが重要である。そのためには事前に目的、意義、実習内容、心得等を具体的に理解し、教育実習に臨めるようにする。

授業の方法

【面接】

1. 印刷物等による講義及び面接授業、グループワークを取り入れたディスカッション等の授業を行う。
2. 指導案を作成し、模擬保育を通して、相互に学び合い、改善指導案を作成する授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①幼稚園教育の動向及び子どもの現状を理解する。
- ②教育実習の目的、意義、実習内容、心得等を理解し、実践力を高める。

授業計画

(第1日)	(第3日)
1. 附属豊明幼稚園施設見学	8. 保育指導案の作成
2. オリエンテーション	9. 模擬保育と検証
3. 教育課程の基本理念・方針と幼稚園教育要領のポイント	10. まとめと討論
4. 実践事例や各種データをもとに幼稚園教育の実際の理解	
(第2日)	
5. 幼稚園教育の実習の目的・意義と実習のあらまし	
6. 幼稚園教育実習に臨むに当たっての心得	
7. 幼稚園保育指導案の書き方の理解	

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

「幼稚園教育要領」を精読しておくこと。4 時間程度。

②使用教科書 なし（印刷プリント配付）

③参考書 幼稚園教育要領解説

④持参するもの 幼稚園教育要領、教育実習の手引

⑤成績評価 授業への意欲、関心、態度 20％
指導案の作成及び模擬保育 50％
レポート 30％（受講内容のポイント理解、自分の意見、実習への決意）
レポートは受講後 1 週間以内に提出

⑥学生へのメッセージ 教師としての意欲や熱意をもって授業に取り組み、実習に向けて確かな実践力を身につけましょう。
学生の状況により授業計画の変更があります。

教育実習事前指導Ⅱ（幼）（集中スクーリング）

担当教員：小川 賀子

3 年次～ 必修無単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

教育は、子どもたちの人間としての望ましい成長・発達に適切にかかわる営みであり、社会の将来をも左右する。その直接の担い手である教員は専門的知識を要する職業であり、この職責の重さを自覚して日々その任に当たっている。そこで、教職を目指す学生は、教育実習を通して、子どもたちと向き合い、教師としての適性、資質・能力を見極めること、実習後の課題を明らかにすることが重要である。そのためには事前に目的、意義、実習内容、心得等を具体的に理解し、教育実習に臨めるようにする。

授業の方法

【面接】

- 1. 印刷物等による講義及び面接授業、グループワークを取り入れたディスカッション等の授業を行う。
- 2. 指導案を作成し、模擬保育を通して、相互に学び合い、改善指導案を作成する授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①幼稚園教育の動向及び子どもの現状を理解する。
- ②教育実習の目的、意義、実習内容、心得等を理解し、実践力を高める。

授業計画

（第 1 日）	（第 2 日）
1. 附属豊明幼稚園施設見学	8. 保育指導案の作成
2. オリエンテーション	9. 模擬保育と検証
3. 教育課程の基本理念・方針と幼稚園教育要領のポイント	10. まとめと討論
4. 実践事例や各種データをもとに幼稚園教育の実際の理解	
5. 幼稚園教育の実習の目的・意義と実習のあらまし	
6. 幼稚園教育実習に臨むに当たっての心得	
7. 幼稚園保育指導案の書き方の理解	

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

「幼稚園教育要領」を精読しておくこと。4 時間程度。

②使用教科書 なし（印刷プリント配付）

③参考書 幼稚園教育要領解説

④持参するもの 幼稚園教育要領、教育実習の手引

⑤成績評価 授業への意欲、関心、態度 20%
指導案の作成及び模擬保育 50%
レポート 30%（受講内容のポイント理解、自分の意見、実習への決意）
レポートは受講後 1 週間以内に提出

⑥学生へのメッセージ 教師としての意欲や熱意をもって授業に取り組み、実習に向けて確かな実践力を身につけましょう。
学生の状況により授業計画の変更があります。

教育実習事前指導Ⅱ（小）（夏期スクーリング）

担当教員： 山口 博子

3年次～ 必修無単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

教育実習は、教職を目指す者にとって、最大の「学び」であり最も貴重な「場」である。

教育実習で何を学び何を感じるかが、その後の教職生活の質を左右するといっても過言ではない。

この科目では、教育実習の際求められる心構えを構築するとともに、これまでの教職に関する学習を振り返り、教育実習で生かせるよう事前の準備を万全にする。また、教育実習での学習指導や生活指導に役立つ演習を経験し、教育実習が有意義で、価値ある学習となるようにする。

授業の方法

【面接】

1. 印刷物等による講義及び面接授業、グループワークを取り入れたディスカッション等の授業を行う。
2. 指導案を作成し、模擬授業を通して、相互に学び合い、改善指導案を作成する授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①今日の小学校教育の動向および教育課題を理解する。
- ②ロールプレイや学習指導案作りを通して、実践力を高める。

授業計画

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. オリエンテーション 教育実習のあらましと心構え | 4. 授業の実際と授業観察の方法 |
| 2. 現代の児童の特徴・実態と教育の今日的課題 | 5. 模擬授業と検証 |
| 3. 学習指導要領と学習指導案作成の実際 | 6. 教育実習での自らの課題をまとめ、ディスカッション |

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

小学校学習指導要領解説総則編を読み、どのような学習指導が求められているかを把握し、理解すること。5時間程度。
学習指導案の作成の仕方を復習しておくこと。2時間程度。

②使用教科書 なし（印刷プリント配付）

③参考書 指定なし

④持参するもの 教育実習の手引き

⑤成績評価

- ・授業の取組姿勢 20%
- ・作成した学習指導案の状況 10%
- ・模擬授業の状況 20%
- ・模擬授業後の振り返りの発言状況 20%
- ・手直した学習指導案の状況 30%

⑥学生へのメッセージ

小学校学習指導要領総則に目を通しておくこと。
履修者の人数により授業方法の変更有。

教育実習事前指導Ⅱ（小）（集中スクーリング）

担当教員： 山口 博子

3年次～ 必修無単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

教育実習は、教職を目指す者にとって、最大の「学び」であり最も貴重な「場」である。
教育実習で何を学び何を感じるかが、その後の教職生活の質を左右するといっても過言ではない。
この科目では、教育実習の際求められる心構えを構築するとともに、これまでの教職に関する学習を振り返り、教育実習で生かせるよう事前の準備を万全にする。また、教育実習での学習指導や生活指導に役立つ演習を経験し、教育実習が有意義で、価値ある学習となるようにする。

授業の方法

- 【面接】
1. 印刷物等による講義及び面接授業、グループワークを取り入れたディスカッション等の授業を行う。
 2. 指導案を作成し、模擬授業を通して、相互に学び合い、改善指導案を作成する授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①今日の小学校教育の動向および教育課題を理解する。
- ②ロールプレイや学習指導案作りを通して、実践力を高める。

授業計画

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. オリエンテーション 教育実習のあらましと心構え | 4. 授業の実際と授業観察の方法 |
| 2. 現代の児童の特徴・実態と教育の今日的課題 | 5. 模擬授業と検証 |
| 3. 学習指導要領と学習指導案作成の実際 | 6. 教育実習での自らの課題をまとめ、ディスカッション |

受講にあたって

- ①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間
小学校学習指導要領解説総則編を読み、どのような学習指導が求められているかを把握し、理解すること。5時間程度。
学習指導案の作成の仕方を復習しておくこと。2時間程度。
- ②使用教科書 なし（印刷プリント配付）
- ③参考書 指定なし
- ④持参するもの 教育実習の手引き
- ⑤成績評価
- ・授業の取組姿勢 20%
 - ・作成した学習指導案の状況 10%
 - ・模擬授業の状況 20%
 - ・模擬授業後の振り返りの発言状況 20%
 - ・手直した学習指導案の状況 30%
- ⑥学生へのメッセージ
小学校学習指導要領総則に目を通しておくこと。
履修者の人数により授業方法の変更有。

教育実習事前指導Ⅱ（中高）（夏期スクーリング）

担当教員：鎌田 浩子

3年次～ 必修無単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

教育実習では、今まで習得した知識や自身の資質・能力をいかに実践的に活用できるかが問われる。
この科目では、教育実習の意義や内容等を把握し、教育実習にあたっての心得等を再認識することが求められる。また、事前課題として準備した学習指導案を検討し、模擬授業を行い実践力を高めることを目指す。そして、教育実習までに必要な課題を探索する場としていきたい。

授業の方法

【面接】
講義の他、グループワーク、ディスカッション、意見発表、模擬授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

有意義な教育実習を行うために必要なスキルアップと自分自身の今後の課題確認

授業計画

- | | |
|-------------------|------------------------------|
| 1. 教育実習の意義・内容について | 4. 学習指導案(素案)発表又は模擬授業の実施と研究協議 |
| 2. 授業の展開の仕方について | 5. 教育実習の事前準備と心構え、質問などの意見交換 |
| 3. 学習指導案の書き方について | |

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

- ・学習指導要領解説の内容を把握し、理解しておくこと。
- ・令和3年8月・国立教育政策研究所・教育課程研究センター発行の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』が国立教育政策研究所のホームページからダウンロードできるので、その内容も理解し、学習指導案の作成に参考にしながら、作成の仕方も復習する。3時間程度。

事前課題 教育実習で実施したい授業の学習指導案を発表できるように準備をしておくこと。

②使用教科書 『家庭総合 明日の生活を築く』家総704 大竹美登利他 開隆堂

③参考書

持参する必要はないが、「学習指導要領解説」及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を手元において実習前の参考とされたい。

(どちらもインターネットよりダウンロード可能)

④持参するもの

教育実習の手引き

受講中に行う模擬授業用の学習指導案(素案でも良い)

模擬授業を行うために必要と思われる文房具や教材・データ保存用のUSBメモリ

⑤成績評価

- ・授業への意欲、関心、態度 20%
- ・学習指導案立案力(内容把握と作成能力) 25%
- ・素案発表又は模擬授業(実践力・教材の工夫と活用能力) 30%
- ・素案発表又は模擬授業・意見交換などの中で、教師に必要な力を評価する(コミュニケーション能力、発言力、まとめる力、判断力、協調性など) 25%

⑥学生へのメッセージ

履修する学生の状況に応じて授業計画の順等の変更あり。

教育実習事前指導Ⅱ（中高）（集中スクーリング）

担当教員：鎌田 浩子

3年次～ 必修無単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

教育実習では、今まで習得した知識や自身の資質・能力をいかに実践的に活用できるかが問われる。

この科目では、教育実習の意義や内容等を把握し、教育実習にあたっての心得等を再認識することが求められる。また、事前課題として準備した学習指導案を検討し、模擬授業を行い実践力を高めることを目指す。そして、教育実習までに必要な課題を探求する場としていきたい。

授業の方法

【面接】

講義の他、グループワーク、ディスカッション、意見発表、模擬授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

有意義な教育実習を行うために必要なスキルアップと自分自身の今後の課題確認

授業計画

- | | |
|-------------------|------------------------------|
| 1. 教育実習の意義・内容について | 4. 学習指導案(素案)発表又は模擬授業の実施と研究協議 |
| 2. 授業の展開の仕方について | 5. 教育実習の事前準備と心構え、質問などの意見交換 |
| 3. 学習指導案の書き方について | |

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

- ・学習指導要領解説の内容を把握し、理解しておくこと。
- ・令和3年8月・国立教育政策研究所・教育課程研究センター発行の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』が国立教育政策研究所のホームページからダウンロードできるので、その内容も理解し、学習指導案の作成に参考にしながら、作成の仕方も復習する。3時間程度。

事前課題 教育実習で実施したい授業の学習指導案を発表できるように準備をしておくこと。

②使用教科書

『家庭総合 明日の生活を築く』家総704 大竹美登利他 開隆堂

③参考書

持参する必要はないが、「学習指導要領解説」及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を手元において実習前の参考とされたい。

（どちらもインターネットよりダウンロード可能）

④持参するもの 教育実習の手引き

受講中に行う模擬授業用の学習指導案（素案でも良い）

模擬授業を行うために必要と思われる文房具や教材・データ保存用のUSBメモリ

⑤成績評価

- ・授業への意欲、関心、態度 20%
- ・学習指導案立案力（内容把握と作成能力） 25%
- ・素案発表又は模擬授業（実践力・教材の工夫と活用能力） 30%
- ・素案発表又は模擬授業・意見交換などの中で、教師に必要な力を評価する（コミュニケーション能力、発言力、まとめる力、判断力、協調性など） 25%

⑥学生へのメッセージ

履修する学生の状況に応じて授業計画の順等の変更あり。

教職実践演習（幼）（夏期スクーリング）

担当教員：小川 賀子

4 年次～ 必修 2 単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

本科目は教職に関する総まとめであることから、入学時から現在までを振り返り、特に教職の科目、教育実習における体験やその反省を中心に進める。また、学びの履歴（履修カルテ）を用いながら教職への思いや教師としての使命感・責任感などを培う。

授業の方法

【面接】

1. ディスカッションや事例研究など具体的な場面に関しての演習を行う。
2. 保育指導案の作成、模擬保育の実施など、教育実習から学んだ自己の課題を振り返り検討し、様々な事例研究を通して学ぶ。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

自己の課題を明確にもち、課題解決のための方策を考えたり学んだりすることを通し、教員としての資質の向上を図る。

授業計画

1. オリエンテーション（本授業の趣旨や内容等について）
 2. 教員の役割、職務内容等について討議、教職の意義や責務についてまとめる。 (第1日)
 3. 幼稚園内外の安全管理・危機管理について、事例を基に話し合う。
 4. 年間計画・学級経営案から、学級担任としての役割や実務、園長の経営方針等を理解し、学級経営案を作成する。 (第2日)
 5. 幼児理解に基づいた評価
 6. 特別な配慮を要する子どもについて
 7. 課題の状況を、教師、幼児、保護者、友人等から分析し、対応の仕方や方法を話し合う。 (第3日)
 8. 保護者対応について（事例研究や役割演技等）
 9. 地域の様々な施設の利用の意義、留意点や活用法
 10. 教員としての服務 (第4日)
 11. 幼稚園教育要領の総則から、保育の課題や指導の在り方をディスカッションする。
 12. 季節や発達に応じた指導案を作成し、検討する。
 13. 模擬保育を実施し、指導法や教材、指導案について話し合い、修正する。 (第5日)
 14. 模擬保育を行い、ディスカッション、全体での意見交換をし、問題点・課題を検討する。
 15. まとめ：本授業を通して明確になったことや自らの課題についてレポート作成する。 (第6日)
- （ゲストスピーカーによる実践報告予定あり、諸事情で出来ない場合もある）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

教育実習日誌や履修カルテを用い、自らの学びを振り返り、課題を見出しておくこと。4 時間程度。

②使用教科書 幼稚園教育要領解説

③参考書 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開 文部科学省 チャイルド本社 2021 年

④持参するもの 教育実習日誌、履修カルテ

⑤成績評価 授業への参加貢献度、提出された指導案、最終日のレポートなどから総合的に評価していく。

⑥学生へのメッセージ 幼稚園教諭を目指す学生として、学びの集大成とすべく、自己を見つめ資質の向上に努めましょう。
学生の状況により、授業計画の変更があります

教職実践演習（幼）（集中スクーリング）

担当教員：小川 賀子

4 年次～ 必修 2 単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

本科目は教職に関する総まとめであることから、入学時から現在までを振り返り、特に教職の科目、教育実習における体験やその反省を中心に進める。また、学びの履歴（履修カルテ）を用いながら教職への思いや教師としての使命感・責任感などを培う。

授業の方法

【面接】

1. ディスカッションや事例研究など具体的な場面に関して実践的な演習を行う。
2. 保育指導案の作成、模擬保育の実施など、教育実習から学んだ自己の課題を振り返り検討し、様々な事例研究を通して学ぶ。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

自己の課題を明確にもち、課題解決のための方策を考えたり学んだりすることを通し、教員としての資質の向上を図る。

授業計画

1. オリエンテーション（本授業の趣旨や内容等について）
2. 教員の役割、職務内容等について討議、教職の意義や責務についてまとめる。
3. 幼稚園内外の安全管理・危機管理について、事例を基に話し合う。
4. 年間計画・学級経営案から、学級担任としての役割や実務、園長の経営方針等を理解し、学級経営案を作成する。（第1日）
5. 幼児理解に基づいた評価
6. 特別な配慮を要する子どもについて
7. 課題の状況を、教師、幼児、保護者、友人等から分析し、対応の仕方や方法を話し合う。
8. 保護者対応について（事例研究や役割演技等）
9. 地域の様々な施設の利用の意義、留意点や活用法
10. 教員としての服務（第2日）
11. 幼稚園教育要領の総則から、保育の課題や指導の在り方をディスカッションする。
12. 季節や発達に応じた指導案を作成し、検討する。
13. 模擬保育を実施し、指導法や教材、指導案について話し合い、修正する。
14. 模擬保育を行い、ディスカッション、全体での意見交換をし、問題点・課題を検討する。
15. まとめ：本授業を通して明確になったことや自らの課題についてレポート作成する。（第3日）
（ゲストスピーカーによる実践報告予定あり、諸事情で出来ない場合もある）

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

教育実習日誌や履修カルテを用い、自らの学びを振り返り、課題を見出しておくこと。4 時間程度。

②使用教科書 幼稚園教育要領解説

③参考書 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開 文部科学省 チャイルド本社 2021 年

④持参するもの 教育実習日誌、履修カルテ

⑤成績評価 授業への参加貢献度、提出された指導案、最終日のレポートなどから総合的に評価していく。

⑥学生へのメッセージ 幼稚園教諭を目指す学生として、学びの集大成とすべく、自己を見つめ資質の向上に努めましょう。
学生の状況により授業計画の変更があります。

教職実践演習（小）（集中スクーリング）

担当教員： 山口 博子

4 年次～ 必修 2 単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

教職に関する総まとめとして学級経営の 2 本の柱である学習指導、生活指導について実践的に学び、自らの教員としての使命感・責任感を培う。
演習の課題は、受講生の教育実習中に解決できなかった課題や新たな疑問等を生かし、教職についたときに生きる内容とする。

授業の方法

- 【面接】
1. 各教科、特別活動、生活指導等の指導案を作成し、実践的な授業を行う。
 2. 教育実習を通した課題を相互に学び合い、解決策を共有し合う授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

- ①主体的に学級経営が行えるよう、自己の課題を明確にする。
- ②課題を克服する姿勢や実践力を養い、教員としての資質の向上を図る。

授業計画

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 本授業の趣旨や内容等についてのオリエンテーション | 9. 模擬授業振り返り |
| 2. 教育実習で学んだ教員の役割等をグループディスカッション | 10. 学習指導案の再検討 |
| 3. 教育実習中の授業実践を基にした学習指導についての課題把握 | 11. あるべき生活指導のありかたについて：いじめ・不登校を中
心にして |
| 4. 小学校学習指導案作成を通した、教材研究の実際 | 12. あるべき保護者・地域の方々との連携について |
| 5. 地域の人材や素材の学習・教育活動への活用 | 13. 教員としての勤務・服務について |
| 6. 小学校学習指導案作成 | 14. 自らの教員としての在り方・指導観・児童観等の振り返り |
| 7. 模擬授業(1) | 15. 教員としての指導観・児童観についてのグループディスカッ
ション |
| 8. 模擬授業(2) | |

受講にあたって

- ①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間
教育実習手帖の整理及びその時点での振り返り（特に教員の役割についての考えをまとめること）
学習指導に関すること 2 時間程度
生活指導に関すること 2 時間程度
それ以外の学校教育に関すること 1 時間程度
- ②使用教科書 学習指導要領 等 プリント配付予定
- ③参考書 特になし
- ④持参するもの 教育実習手帖、履修カルテ
- ⑤成績評価 演習中の取り組み姿勢（20%）
作成した学習指導案の状況（10%）
模擬授業の状況（10%）
模擬授業・ロールプレー等後のディスカッションの発言内容の状況（20%）
レポート課題（40%）

教職実践演習（中高）（夏期スクーリング）

担当教員：鎌田 浩子

4 年次～ 必修 2 単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

本科目は教職に関する総まとめで、特に教育実習における体験やその反省を中心に進める。授業はディスカッションや事例研究、模擬授業など具体的な場面についての演習を行う。授業の前半は、教育実習を再確認する時間として履修カルテも用い講義や学びと現実とのギャップなどを通して教職への思いや使命感・責任感などを培う。後半は学習指導要領をもとに、中・高の教科による演習を展開する。教科カリキュラムや学習指導案の作成、模擬授業の実施など教育実習から学んだ自己の課題を考え検討する。

授業の方法

【面接】

講義の他、グループワーク、ディスカッション、意見発表、模擬授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

教師としての自覚と責任感を持ち、物事に対処し主体的に学級経営や学習指導ができるようにする。自己の課題を明確にもち、その方策を考え、学びを通し教師としての資質の向上を図る。

授業計画

1. オリエンテーション（本授業の趣旨や内容等について）
2. 教育実習から学んだ教師(服務を含む)の役割、職務内容等についてディスカッションする。
3. 教職の意義や責務についてまとめる。
4. 教育実習において学んだ、学校内外の安全教育（生活・交通・災害）・危機管理について、事例を基に話し合う。
5. 教育実習校における学校経営・学級経営を参考に、学級担任としての役割や実務、校長の経営方針等について話し合う。
6. いじめや不登校の生徒に対する指導の在り方を考えると共に、事例研究を通して課題克服の方法を学ぶ。
7. 保護者の様々な訴え等に応じた対応について考え、事例研究や役割演技を通して話し合う。
8. 教師としての服務について事例研究から検討する。
9. 学校教育の課題や指導の在り方を確認し、教育実習の学習指導案を報告。授業の課題を明確にし、自己目標を設定する。
10. 自己目標の達成を目指した学習指導案を作成。
11. 12. 13. 模擬授業を行い、指導法や教材、指導案について話し合う。
14. 指導案の加筆・訂正をする。
15. まとめ。本授業や模擬授業を通してレポート作成をする。
(ゲストスピーカーによる実践報告予定あり、諸事情で出来ない場合もある)

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

- ・教育実習の指導案の課題を整理し改善した指導案を作成して持参。
- ・教育実習中の管理職・指導教諭（教科・学級担任等）からの指導、実習全般および生徒との関わりの中で学んだ内容を自分の中で整理しておく。受講中、事例研究や指導案の作成など課題実施が必要である。5 時間程度。

②使用教科書 『家庭総合 明日の生活を築く』家総 7 0 4 大竹美登利他 開隆堂

③参考書

持参する必要はないが、以下の資料が手元にあるとよい。

- ・法令（教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則等）集 他
- ・「学習指導要領解説」（文部科学省）及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（令和 3 年 8 月・国立教育政策研究所・教育課程研究センター発行）
[いずれもインターネットよりダウンロード可能]

④持参するもの 学習指導案作成のための教科書及び資料、模擬授業を行うために必要と思われる文房具や教材、データ保存用のUSBメモリ、作成した履修カルテ、指導案、教育実習手帳などの資料

⑤成績評価

ディスカッションや事例研究・種々の作成資料 20%、学習指導案及び模擬授業 50%、レポート課題 30%。

⑥学生へのメッセージ

履修する学生の状況に応じて授業計画の順等の変更あり。

教職実践演習 (中高) (集中スクーリング)

担当教員：鎌田 浩子

4 年次～ 必修 2 単位

スクーリング科目／2025 年度

概要

本科目は教職に関する総まとめで、特に教育実習における体験やその反省を中心に進める。授業はディスカッションや事例研究、模擬授業など具体的な場面に関しての演習を行う。授業の前半は、教育実習を再確認する時間として履修カルテも用い講義や学びと現実とのギャップなどを通して教職への思いや使命感・責任感を培う。後半は学習指導要領をもとに、中・高の教科による演習を展開する。教科カリキュラムや学習指導案の作成、模擬授業の実施など教育実習から学んだ自己の課題を考え検討する。

授業の方法

【面接】

講義の他、グループワーク、ディスカッション、意見発表、模擬授業を行う。

学位授与方針との関係

大学DP1 大学DP2 大学DP3 大学DP4 大学DP5

到達目標

教師としての自覚と責任感を持ち、物事に対処し主体的に学級経営や学習指導ができるようにする。自己の課題を明確にもち、その方策を考え、学びを通し教師としての資質の向上を図る。

授業計画

1. オリエンテーション (本授業の趣旨や内容等について)
2. 教育実習から学んだ教師(服務を含む)の役割、職務内容等についてディスカッションする。
3. 教職の意義や責務についてまとめる。
4. 教育実習において学んだ、学校内外の安全教育 (生活・交通・災害)・危機管理について、事例を基に話し合う。
5. 教育実習校における学校経営・学級経営を参考に、学級担任としての役割や実務、校長の経営方針等について話し合う。
6. いじめや不登校の生徒に対する指導の在り方を考えると共に、事例研究を通して課題克服の方法を学ぶ。
7. 保護者の様々な訴え等に応じた対応について考え、事例研究や役割演技を通して話し合う。
8. 教師としての服務について事例研究から検討する。
9. 学校教育の課題や指導の在り方を確認し、教育実習の学習指導案を報告。授業の課題を明確にし、自己目標を設定する。
10. 自己目標の達成を目指した学習指導案を作成。
11. 12. 13. 模擬授業を行い、指導法や教材、指導案について話し合う。
14. 指導案の加筆・訂正をする。
15. まとめ。本授業や模擬授業を通してレポート作成をする。
(ゲストスピーカーによる実践報告予定あり、諸事情で出来ない場合もある)

受講にあたって

①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間

- ・教育実習の指導案の課題を整理し改善した指導案を作成して持参。
- ・教育実習中の管理職・指導教諭 (教科・学級担任等) からの指導、実習全般および生徒との関わりの中で学んだ内容を自分の中で整理しておく。受講中、事例研究や指導案の作成など課題実施が必要である。5 時間程度。

②使用教科書 『家庭総合 明日の生活を築く』家総704 大竹美登利他 開隆堂

③参考書

持参する必要はないが、以下の資料が手元にあるとよい。

- ・法令 (教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則等) 集 他
 - ・「学習指導要領解説」(文部科学省) 及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」(令和3年8月・国立教育政策研究所・教育課程研究センター発行)
- [いずれもインターネットよりダウンロード可能]

④持参するもの 学習指導案作成のための教科書及び資料、模擬授業を行うために必要と思われる文房具や教材、データ保存用のUSBメモリ、作成した履修カルテ、指導案、教育実習手帳などの資料

⑤成績評価

ディスカッションや事例研究・種々の作成資料 20%、学習指導案及び模擬授業 50%、レポート課題 30%。

⑥学生へのメッセージ

履修する学生の状況に応じて授業計画の順等の変更あり。